

## 公益社団法人日本看護科学学会 2022年6月定時社員総会 議事録

日 時：2022年6月19日（日）11：00～12：42

場 所：公益社団法人日本看護科学学会事務所

総社員数：312名

出席社員数：284名（オンライン出席127名、委任状137名、議決権行使20名）

出席理事・監事：堀内成子（理事長）、法橋尚宏（副理事長）

（うち15人社員）池田真理、石橋みゆき、井上智子、江藤宏美、大久保暢子、亀井智子、近藤暁子、須釜淳子、手島恵、仲上豪二郎、中村幸代、深堀浩樹、宮下光令  
南裕子（監事）、村嶋幸代（監事）（以上50音順。全員オンライン出席）

議 長：堀内成子（理事長）

議事録作成者：三里久美子（横浜市立大学大学院）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

冒頭、オンライン出席者の通信状況について、出席者の映像及び音声が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることが確認された。

### I. 開会

開会時、オンライン出席の社員78名、有効委任状・議決権行使157名で、総計235名となり、日本看護科学学会定款第23条および第24条に定められた要件を満たしているため、公益社団法人日本看護科学学会2022年6月定時社員総会を開催する。司会は法橋尚宏（副理事長）を予定していたが、突然の通信状況不良のため、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）が代行し、開会した。（その後、法橋副理事長が司会に戻った）書記は三里久美子（横浜市立大学大学院）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）で行われた。

### II. 理事長挨拶

堀内成子理事長より、以下の挨拶があった。

昨年12月の社員総会および新年の挨拶以降の大きな動きとして、2月のロシアによるウクライナ侵攻に対し、「ウクライナ侵攻による戦争災害に対する平安と保護の願い」の声明を発出、同時にユニセフへの500万円の寄付を行った。ユニセフからいただいた100日間レポートはホームページに公開している。今期の活動方針は、若手研究者の育成、研究活動の推進、将来を見据えた法人運営を目指して活動を行ってきた。研究助成については、内閣府から承認の連絡があり、7月には認定通知が届く予定となっている。また、JANS42への会員の参加登録は順調に進んでいる。本日の定時社員総会での審議としては2021年度の決算、2022年度の補正予算、第45回学術集会長および名誉会員の承認などであり、代議員の皆様から重要な審議に対するご意見をいただけるようお願いしたい。さらに、本会英文誌「Japan Journal of Nursing Science（JJNS）」編集長、William L. Holzemer先生が来日されており、JJNSについてご挨拶をいただく予定である。

William L. Holzemer英文誌編集長より、以下の挨拶があった。

2004年に発刊を開始し、もうすぐ20周年を迎える。現在、世界の1万以上の組織からWiley

Online Libraryを通じてJJNSで公開された論文を読むことができる。2008年から2021年の日本人からの投稿数はコンスタントに増加し、2019年に95件、2021年には138件へ増加している。査読には、4、5人の査読者が関与し、自分が最終段階で査読を行っている。インパクトファクターは上昇を続け、被引用件数は中位であるが、発刊後年月を経過していない近年のジャーナルにおいては、十分な位置にある。2021年は2,112件の投稿があり、407件を受理、そのうち377件が査読の最終段階まで完了した。査読の質の確保が課題であると考えられる。

迅速査読により、初回査読期間は平均32日と短く、投稿プロセスは簡易であり、MEDLINE/PubMed、Web of Science、CINAHLなどから検索でき、1万件を超える組織のグローバルな読者による論文へのアクセスが可能となり、JJNSは偉大な功績を達成したが、今後も成長を続けていく。

次に、米国における博士号取得過程における最新の教育についてお伝えしたい。米国では、研究の博士号（PhD）と臨床の博士号（DNP）に区別されている。American Association College of Nursingにおいて、PhDの取得には、医療のビックデータを取り扱うデータサイエンス、不平等、平等、差別という概念を含む健康の社会的決定要因、教員、スタッフや学生のジェンダー、年齢や人種などの多様性および看護実践における臨床的関連性に関する科学が求められている。PhDプログラムについては、American Association College of Nursing（2022）のウェブサイトの詳細を確認できる。JJNSへの支援および看護革新におけるJANSのグローバルな貢献に感謝している。（なお、<https://www.youtube.com/watch?v=OQPbJBQYXEQ&t=22s> にてホルツマー編集長の挨拶映像が視聴可能）

### III. 議長指名および議事録署名人の承認

定款22条3項に従い、堀内理事長が議長に選出された。議事録署名人については、議長から多喜田恵子氏（岐阜保健大学）、長谷川真澄氏（札幌医科大学）の2名が推薦され承認された。

### IV. 報告事項

#### 1. 理事会および社員総会報告<中村幸代理事>

1) 理事会報告：議案書（p.4-7）に基づき報告があった。

2021年度理事会は、計9回、うち8回はオンライン、1回は書面審議で実施した。定例理事会6回、臨時理事会2回、書面理事会1回であった。6月13日（日）の臨時理事会では、現在の理事長（代表理事）、副理事長が承認された。7月16日（金）の臨時理事会では、今期理事会の方針、会務分掌案および委員の承認、2021年度各委員会予算等について審議を行った。3月9日（水）の書面理事会では、「ウクライナ侵攻による戦争災害に対する平安と保護の願い」の声明と寄付について審議した。詳細は議案書を参照。

2) 社員総会報告：議案書（p.8-9）に基づき報告があった。

2021年6月に定時社員総会、2021年12月に社員総会がオンラインにより行われた。詳細は議案書を参照。

#### 2. 総務報告<中村幸代理事>

議案書（p.10）に基づき報告があった。

会員推移については、2021年4月1日時点での正会員数9,311名、2021年度入会者は733名で

あった。2021年度死亡喪失者2名、会員区分の変更1名、名誉会員承認1名であり、2022年3月31日現在会員総数は、正会員10,041名、名誉会員18名、賛助会員4件、会員総数10,063件であり、正会員数は漸増している。地区別正会員数は表に示した通りである。

### 3. 2021 年度事業報告

議案書 (p.15-29) に基づき、各担当理事より報告があった。

#### (1) 第41 回日本看護科学学会学術集会開催<中村幸代理事>

- ・第41 回日本看護科学学会学術集会 (JANS41) を百瀬由美子学術集会会長のもと、2021年12月4日・12月5日のZoom・LIVE 配信を中心に11月19日～12月28 日までオンデマンド配信を含めオンライン (Web) にて開催した。メインテーマは「共創による新たな看護科学の可能性」、参加者総数3,627名であった。
- ・最終演題数908題 (口演226題、示説625題、English Session 16題、交流集会 日本語40題・英語1題)、ランチョンセミナー6件、市民公開講座「感染症流行時の災害に備える～社会的弱者の安全と健康を守る～ (愛知県立大学 看護学部 教授：清水宣明氏)」を実施した。

#### (2) 第42 回・第43 回日本看護科学学会学術集会準備<中村幸代理事>

- ・第42 回日本看護科学学会学術集会は、森山美知子学術集会会長のもと、2022年12月3日から12月4日の2日間、広島国際会議場他にて実施予定である。3月時点では現地開催を中心としていたが、ハイブリッド開催へ変更となった。メインテーマは「ケアサイエンスの構築に向けて看護科学の深化と発展」である。
- ・第43 回日本看護科学学会学術集会は、田中マキ子学術集会会長のもと、2023年12月9日から12月10日の2日間、海峡メッセ下関他にて、現時点では現地開催予定である。

#### (3) 和文誌編集委員会<宮下光令理事>

##### ① 日本看護科学会誌 (電子ジャーナル) の発刊

- ・日本看護科学会誌41巻をオンラインで発刊した。2021年1月～12月の投稿数は、256 編 (前年は193 編) であり、昨年より50編程度増加している。採択論文数は、論壇1編、総説7編、原著論文81 編、短報2編、資料14編、その他0編、計105編、採択率は41.0% であり、大きな変化はなかった。
- ・論文公開時には会員に向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・表彰論文選考に参画した。

##### ② 更なる投稿規程等の見直しに関する検討

- ・2021年3月に修士論文・博士論文を含んだ更なる投稿数の増加、査読に要する日数の短縮化などを目標とした投稿規程などの全般的な見直しに着手し、今秋までには新しい投稿規定を提示できると考えている。

##### ③ 第41 回学術集会にて交流集会「『査読者や編集委員の視点からみたJANS 和文誌に論文を載せるコツ』をこっそり教えます」を開催

- ・2021年12月5日、14:50～15:50、Zoom・LIVE 配信を行った。

委員会開催：2回 (2021年10月2日、2022年1月24日) オンライン

#### (4) 英文誌編集委員会<江藤宏美理事>

2004年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）の発行を開始、2014年からはonline-only journalとして、年4回の発行を実施。また、年1回、JJNSセミナーを開催している。

##### ① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.18をオンラインで発刊した。2021年1月～12月の投稿論文数は、708編（前年は704編）であり微増した。原著論文で掲載された論文は、70編（会員30編、非会員40編）であった。
- ・ 表彰論文選考に参画した。
- ・ 2020年のImpact Factor は、1.418 であった（2021年6月発表による）。

##### ② 迅速査読の導入

- ・ 2020年3月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した。2020年20編、2021年30編、2022年3月31日現在、8編であり、年々増加している。

##### ③ 出版社との契約更新内容検討中

- ・ 2022年以降の契約更新プロポーザルを受け取り、2021年12月に2022-2026年の出版について、Wileyと契約更新した。

##### ④ JJNSセミナーの開催

- ・ JJNSセミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2021をオンデマンドで配信した（2021年12月6日～2022年1月31日）。

委員会開催：2回（2021年8月3日、2022年2月11日）

#### (5) 表彰論文選考委員会<亀井智子理事>

##### ① 表彰論文の選考

- ・ 日本看護科学学会が発行する和文誌および英文誌から、優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。
- ・ 表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文17編（和文8編・英文9編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文8編（和文2編・英文6編）を審査リストとして作成した。
- ・ 2021年9月7日に、全代議員、役員314名にメールにて採点を依頼。
- ・ 10月3日までに返信された215件について評価点の集計を行い、回収率は68.5%（215/314）であった。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞2編、奨励賞1編を決定、理事会に報告し承認を得た。

##### 【優秀賞】

- ・ Deep learning-based classification of rectal fecal retention and analysis of fecal properties using ultrasound images in older adult patients  
Masaru Matsumoto, Gojiro Nakagami, Mikako Yoshida, Yuka Miura, Junko Sugama, Hiromi Sanada  
JJNS, 2020, Volume17, Issue 4(e12340)
- ・ Safety and the effectiveness of a new education program for nurses to assess

swallowing function using fiberoptic endoscopic evaluation of swallowing (FEES)  
Mikako Yoshida, Yayoi Kamakura, Yuka Miura, Yohei Okawa, Hiromi Sanada  
JJNS, 2020, Volume17, Issue 2(e12313)

【奨励賞】

- ・ Incidence, risk factors, and assessment of induration by ultrasonography after chemotherapy administration through a peripheral intravenous catheter  
Mari Abe-Doi, Ryoko Murayama, Chieko Komiyama, Hiromi Sanada  
JJNS, 2020, Volume17, Issue 3(e12329)

② 他組織からの表彰候補者の推薦

- ・ 山上の光賞（第7回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1名を推薦した。
- ・ 日本学術振興会賞（第18回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、2名を推薦した。
- ・ SGH看護特別賞（第19回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1名を推薦した。

③ 学術集会演題表彰の実施

- ・ 第41回学術集会において演題表彰を実施した。（今回から実施）
- ・ 賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」とし、選考は2段階で行った。第1段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用し、査読者2名以上による採点を行い、上位10名を選考した。第2段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会で主に採点をして最終選考を行った。
- ・ 閉会式にて、優秀演題口頭発表賞9件（うち最優秀賞1件）、若手優秀演題口頭発表賞10件（うち最優秀賞1件）、優秀演題ポスター発表賞9件（うち最優秀賞1件）、優秀演題抄録賞10件（うち最優秀賞1件）の表彰を行った。

委員会開催：3回（2021年8月25日、10月9日、2022年1月19日）オンライン会議

(6) 研究・学術推進委員会<深堀浩樹理事>

① 会員の大型研究の推進に関する事業

- ・ 2020年に日本学術振興会の「学術変革領域研究（A）」の令和3(2021)年度における申請において領域代表者となる意思のある会員の募集を行い、1件を採択した。さらにこの研究計画による公募に「計画研究代表者」として参加を希望する会員の募集し12件を採択した。
- ・ 領域代表者、研究・学術推進委員会委員、計画研究代表者での検討を経て2021年1月25日に、領域代表者が令和3(2021)年度学術変革領域研究(A)「人々が抱える生きにくさの解放的変容を可能にする意味立脚型医療学（領域略称名:生きにくさの変容）」の領域計画書を日本学術振興会に提出するに至った。
- ・ 2021年5月7日に「人々が抱える生きにくさの解放的変容を可能にする意味立脚型医療学」はヒアリング対象研究領域とならなかったとの通知を受け、2021年9月17日に審査結果の所見を受け取った。
- ・ 上記と同様のメンバーで、令和4(2022)年度学術変革領域研究(A)「人々が抱える生き

にくさの変容を可能にする意味立脚型医療学（領域略称名:生きにくさの変容）」を2021年10月5日に日本学術振興会に提出した。提出に際しては、研究メンバーでの検討を研究・学術推進委員会が支援した。また、民間業者による領域申請書への科研費申請支援（申請書レビュー）を受けた。提出後に、過去に大型研究の採択経験のある研究者へのヒアリングを行った。

- ・2022年1月28日に「人々が抱える生きにくさの変容を可能にする意味立脚型医療学（領域略称名:生きにくさの変容）」はヒアリング対象領域とならなかったとの通知を受けた。
- ・上記の活動に加え、新たに「特別推進研究」「学術変革領域研究（A）」「学術変革領域研究（B）」「基盤研究（S）」「基盤研究（A）」へ研究代表者として申請を予定している会員への支援として「科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト」を開始し、令和3（2021）年12月17日・令和4（2022）年1月31日に申請を受け付け、2件の応募があった。

## ② JANS セミナーの企画・開催

- ・第18回JANS セミナー「学術の変革をもたらすリサーチ・マインドを高めよう！」をWeb開催した（2021年8月16日～11月30日まで）。受講者数は、328名（会員298名・非会員19名・基礎教育課程学生11名）であった。これまでのセミナーと比べて多くの基礎教育課程学生の参加を実現できた。
- ・第20回JANS セミナーの企画検討を行った。

## ③ 第41回学術集会での交流集会の企画

- ・第41回学術集会において交流集会「若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得を目指して：研究・学術推進委員会の活動報告と今後の課題」を開催した（2021年12月5日 13：40～14：40、Zoom・LIVE配信）。

## ④ その他の事業

- ・社会貢献委員会、若手研究者活動推進委員会との委員会横断型事業として「オンラインジャーナルクラブの実施」について検討を行い、2022年3月2日にトライアルを実施した。参加者は学部学生3名を含む22名であった。
- ・JANS セミナーのアーカイブ化について検討し理事会に報告、会員が過去のセミナーを一定期間閲覧できるように検討していきたいと考えている。

委員会開催：5回（2021年5月8日、8月21日、10月11日、11月30日、2022年2月19日）オンライン

## (7) 看護ケア開発・標準化委員会<須釜淳子理事>

### ① モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き2014に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする

- ・2021年6月南江堂から「看護ケアのための摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する診療ガイドライン」の冊子体および電子版（定価2,530円）を発刊した。
- ・社員に冊子体を送付し、日本語版はJANS ホームページ会員サイトで公開、英語版ガイドラインはJANS 英語ホームページで公開した。

- ・ JJNS にガイドラインの一部を投稿中である。
- ・ 2022年3月22日 Minds ガイドラインライブラリに公開した。
- ② 2019 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する
  - ・ ケアガイドラインを作成する活動について、引き続き2件の支援を行っている。
- ③ 活動状況の公開
  - ・ 第41 回学術集会において、シンポジウム「学会主導型看護ケアガイドライン策定の取組 2021」を開催した（2021年12月5日10：10～11：10 Zoomオンライン）。
- ④ 2021 年度新規ガイドラインの結成と支援
  - ・ 公募（2021年7月20日～8月30日）を行い、理事会にて決定し（2021年9月6日）、次のチームを結成した。  
「看護ケアのための慢性便秘のアセスメントに関する診療ガイドライン」  
須釜淳子代表（藤田医科大学）
- ⑤ 日本薬理学会との共同学術企画
  - ・ インスリンボールに関するスコーピングレビューを開始した（2021年8月～）。
  - ・ 第41回学術集会において、シンポジウム「スコーピングレビュー：インスリンボール」を開催した（2021年12月4日 9：30～10：30 Zoom）。
  - ・ 第95 回日本薬理学会年会（2022年3月7日～9日 福岡、ハイブリッド開催）において、日本薬理学会・日本生理学会・日本看護科学学会共催シンポジウム「インスリン・糖尿病研究の新展開：基礎から臨床まで」を行い、スコーピングレビューメンバー1 名が発表した（2022年3月9日）。

## (8) 若手研究者活動推進委員会<仲上豪二郎理事>

### ① 委員会としての活動

- ・ JANS若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。
- ・ JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は2022年3月現在で計788名であり、現在は800名を超えている。
- ・ 日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信に随時努めている。

### ② JANS セミナーの開催

- ・ 第17回JANS セミナー「看護学研究の社会実装：インプリメンテーション研究とデータサイエンスの潮流」（オンデマンド配信）を開催した（2021年3月22日～5月31日）。受講者数は566名（会員519名・非会員44名・基礎教育課程学生3名）であった。
- ・ 第19回JANS セミナー「質の高い研究の統合からよりよい看護実践を導く：診療ガイドラインの作成と統合研究」（オンデマンド配信）の申込み・配信を2022年3月23日から開始した（～5月31日まで配信予定）。

### ③ COVID-19がJANS 会員の教育・研究活動に与えた影響の調査

- ・ COVID-19看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を3名選出し、調査を実施した。詳細はCOVID-19看護研究等対策委員会の活動報告に記載。また、会員からの要望の多かった調査データのオープンソース化に向け、まずは共同研究者として参画する枠組

みを検討した。

- ・2022年3月に第二回調査（Web調査）を実施した（3月31日回答締め切り）。

#### ④ エリア検討会開催支援

- ・JANS 若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2021年度に開催されたエリア検討会は、2022年3月5日 第3回中国・四国エリア検討会、2022年3月12日 第2回北関東エリア検討会であった。それぞれの開催報告をJANS 若手の会ホームページ上に掲載した。

#### ⑤ エリア・コーディネーター活動の活性化

- ・これまでエリア・コーディネーターは全国にあるエリア内での活動を主としていたが、担当エリアを越えた交流を促すことと、エリア・コーディネーターの意見を学会活動に反映することを目的として、2022年3月にエリア・コーディネーター合同ミーティングを開催した（2022年3月14日、3月29日の2回に分けて実施、いずれもオンライン開催）。
- ・エリア・コーディネーター間の交流を促すことを目的に、JANS エリア・コーディネーター用Slackワークスペースを開設し、現在も積極的に利用している。

#### ⑥ 広報活動

- ・JANS 若手の会のWebサイトについて、若手研究者活動推進委員会の活動の可視化、若手メーリングリストやイベントの広報、今後の更新のしやすさと汎用性の向上を目的に修正案を作成した。2022年度にかけてWebサイトの修正を行う。

#### ⑦ 若手研究者の国際化に向けて

- ・世界看護科学学会WANSにおける、JANSとThailand Nursing and Midwifery Council (TNMC)、Korean Society of Nursing Science (KSNS)、The Indonesian National Nurses Association (INNA)との合同開催セミナー（2022年8月開催）において、若手研究者活動推進委員よりパネリストを選出した。

#### ⑧ 日本心理学会とのコラボレーション

- ・第41回日本看護科学学会学術集会において、「看護科学と心理科学の共創による新たな視点—最新のコミュニケーション研究をめぐって—」と題し、二学会合同シンポジウムを開催した。次回は日本心理学会学術集会でのシンポジウムを開催する予定である。

委員会開催：3回（2021年7月26日、10月24日、11月29日）いずれもオンライン開催

その他、若手研究者活動推進委員会のSlackワークスペースを開設し、常時コミュニケーションをとった。

### (9) 国際活動推進委員会（世界看護科学学会を含む）＜池田真理理事＞

#### ① 委員会としての活動

- ・国際活動推進委員会を6回（2021年4月1日、新メンバーで8月19日、10月21日、12月15日、2022年1月24日、3月23日）オンラインで開催した。

#### ② 委員会企画 交流集会

- ・第41回学術集会で、交流集会「日本の看護学研究者が海外の研究者とネットワークを構築するために」を開催した（2021年12月5日12：30～13：30 Zoomオンラン）。



### ③ 世界看護科学学会 (World Academy of Nursing Science : WANS)

- ・世界看護科学学会 (WANS) 事務局業務を引き続き実施した (ホームページ維持管理含む)。
- ・過去の4年間、理事長はJANS から推薦された片田範子委員であった。12月で任期 (2期) 満了となることから、12月8日開催の理事会で次期理事長の選挙を行った。TNMC (Thailand Nursing Midwifery Council) のTassana Boontong 氏が理事長に選出された。2022年1月よりWANS事務局もこちらに移行した。
- ・2022年10月開催予定の第7回世界看護科学学会学術集会 (WANS) で行われる4つの招待シンポジウムの中のEducation Session に、JANSからは吉永尚紀氏を推薦し、決定した。タイ、韓国、インドネシアのメンバー組織とセミナーを企画し、8月9日に若手セミナーとして発信し、すでに157名の参加申し込みがある。

### ④ 異文化看護データベース

- ・異文化看護データベースの維持・更新について引き続き国際活動推進委員が中心となってデータ更新を進めている。

## (10) 看護学学術用語検討委員会<大久保暢子理事>

### ① 用語「セルフケア」の検討と再定義化

- ・研究計画書に準じてフォーカスグループインタビュー調査を実施し、逐語録に対する内容分析を行い、再定義を行った。
- ・フォーカスグループインタビューは2グループに実施した。対象者は計13名 (女性10名、男性3名)、平均実務年数22.5年、専門領域は、救急2名、回復期1名、精神2名、小児1名、母性・助産1名、老年2名、急性期1名、慢性期1名、在宅1名、管理1名であった。

### ② 既存の100の用語の電子システム化と新用語追加に対する募集要項等の作成

- ・過去の委員会活動で作成された100の用語を広く会員に活用してもらえるよう電子システム化を進め、デジタル上での検索を容易にした。また新用語を今後、電子システム上に追加できるよう新用語の追加に関する募集要項、審査基準等を作成中である。

### ③ 第41回学術集会での交流セッションの開催

- ・第41回学術集会で交流集会「学術用語の定義付けが看護実践にもたらす意味—セルフケア概念に着目して」を開催し (2021年12月4日13:00~14:00 Zoomオンライン)、意見交換を行った。同時に100の用語の電子システム化を公表し、活用を促すアナウンスを行った。

### ④ 日本看護協会主催「看護にかかわる用語の検討委員会」への参加

- ・上記委員会 (2021年9月15日、11月1日、月21日) に参加し、看護で扱う用語について意見交換を行った。

委員会開催 : 4回 (2021年8月16日、11月4日、11月17日、2月10日) 全てオンライン  
その他、班会議をオンラインにて5回程度開催。

## (11) 社会貢献委員会<大久保暢子理事>

### ① 第41回学術集会において市民公開講座を開催

- ・第41回学術集会で市民公開講座「感染症流行時の災害に備える～社会的弱者の安全と健康を守る～」(オンデマンド配信、ライブ質疑応答)を開催した。演者は、愛知県立大学看護学部教授、清水宣明氏で、申込者数は635名であった。
- ・JANS41市民公開講座の動画は、会員限定の会員メニュー内に保存し、JANS41終了後も会員が閲覧できるようにした(視聴期間:2021年11月29日~12月28日)。動画再生回数1,155回であり、満足度は高い結果を得られた。

## ② JANS42の「市民公開講座」の検討

- ・広島国際会議場にてハイブリッド形式でJANS42市民公開講座を開催予定であり、講師の選定と内容を現在検討中である。

## ③ 次世代の看護学研究者育成事業「ナーシング・サイエンス・カフェ」の検討

- ・次世代の看護学研究者育成事業として、これまで中高生を対象に対面式開催であったナーシング・サイエンス・カフェを再検討した。今期より、次世代育成・発掘事業「人の幸せにつながる科学を探求しませんかー看護学への招待ー」をテーマとして、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」動画とウェブサイトを立てる計画を立案した。
- ・現在、動画作成の検討中であり、この動画を視聴した中高生を対象に今後、交流会を開催し、次世代の看護学研究者の育成・発掘を目指す。

委員会開催:1回(2021年8月25日)、2回(2021年9月21日)3回(2021年10月13日)、4回(2021年11月22日)、5回(2022年2月9日)全てオンライン  
その他に半会議を5~6回開催

## (12) 広報委員会<法橋尚宏副理事長>

### ① ウェブサイトの維持・管理・改善

- ・本会公式Webサイトの維持・管理・更新、改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。

### ② 学術集会等の広報活動

- ・第41回学術集会の市民フォーラム(市民公開講座)の広報活動を行った。
- ・第41回学術集会の様子をスクリーンショットにおさめ、記録として本会Webサイトに掲載した。

### ③ 委員会成果物の公表

- ・JANS研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2020年度表彰論文の追加掲載を行った。

### ④ 英語版ウェブサイトのリニューアル

- ・英語版Webサイトのリニューアルを行った(2021年6月)。

### ⑤ デジタル広報の推進

- ・Facebookページ(会員が交流できる会員フォーラム)とYouTubeチャンネル(電子的広報の場)の開設、本会のマスコットキャラクター(ジャンとスウ)を整備するなど、デジタル広報推進の提案をし、実施検討中である。
- ・会員向けのニューズレター(電子メールで一斉配信)の創刊の準備をした。

委員会開催:2回(2021年8月29日(日)、2021年9月26日(日))

**(13) 看護倫理検討委員会<手島恵理事>**

- ・看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に活動している。特に看護学が関連する倫理的社会的な事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を検討している。

委員会開催：1回（2021年10月28日）

**(14) 利益相反委員会<井上智子理事>**

- ・役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起らないようマネジメントしている。
- ・和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
- ・学術活動の利益相反に関する本学会の細則等の見直しを行うことを計画した。
- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則との整合性を検討している。

委員会開催：1回（2022年3月25日）メール審議

**(15) 研究倫理審査委員会<井上智子理事>**

- ・本学会への研究倫理審査申請件数は減少している。
- ・2021年3月～2022年3月までに3件の申請があり、前年度条件付きの回答をし、再提出後承認2件、申請受理に至らないとの判断により1件不受理とした。

**(16) 災害看護支援委員会<近藤暁子理事>**

- ・様々なシンポジウムやフォーラムへ参加し、情報収集を行い、災害時の活動について検討した。
- ・「コロナ患者の対応を本務としていないJANS会員（教員、大学院生など）のCOVID-19支援の現状及び所属機関からのサポートに関する調査」の研究計画書を作成し、7月から8月に会員へ調査協力を依頼したいと考えている。

委員会開催：3回（2021年8月12日、10月26日、12月23日）

**(17) 若手研究者助成選考委員会<亀井智子理事>**

- ・2021年度上期は3件の申請があり、2件の海外留学について助成を決定した。
- ・2021年度下期の募集を9月10日から10月31日まで実施し、問い合わせはあったが応募はなかった。

委員会開催：1回（2021年6月2日）

**(18) 会則等委員会<石橋みゆき理事>**

- ・本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行うため2020年6月に設置された委員会である。

### ① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討

- ・若手研究者の育成及び支援に関する新規事業の定款への反映を行った（2021年3月31日施行）。
- ・研究助成等の新規事業の開始に伴い、正会員に関する記載について、下位の会則変更の内容が定款に及ぼす影響を検討し、改正の必要性を検討していく。

### ② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

- ・引き続き検討していく。

## (19) COVID-19 看護研究等対策委員会<須釜淳子理事>

- ・本委員会は、COVID-19 の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3年）な活動をすることで理事会承認により設置された委員会である。
- ・調査報告結果を解析し、海外専門学術誌に投稿し、JJNS に採択され、9月8日にオンライン公開された（e12454）。
- ・第2回目調査について検討を開始し（8月26日～）、新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員への研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査（2回目）を2022年3月7日～3月31日にオンライン調査で行った。結果については、ホームページに公開の予定である。
- ・第41回日本看護科学学会学術集会にて、若手研究者活動推進委員会と共同でシンポジウム「コロナ禍での看護研究をいかに活性化するか？：会員調査に関する共同研究の枠組みと次のステップ」を開催した（12月4日15：20～16：20 Zoomオンライン）。
- ・取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトの成果を公表論文として学会HP上に公開した。

委員会開催回数：2回（2021年8月26日、10月29日）その他、メール会議

## (20) 総務委員会<中村幸代理事>

### ① 入会審査、会員管理の実施

- ・入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2021年度の入会審査数は、509名であった（2022年3月31日現在）。

### ② 学会事務所の運営

- ・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛け、事務所の移転のために、移転先の条件の整理・検索・検討を実施した。この後、第5号議案において審議をお願いしたい。

委員会開催回数：1回（2021年7月5日）

メール審議回数：7回

## (21) 新規事業：研究助成の実施に関する準備<法橋尚宏副理事長>

### ① 実施内容の検討、決定

- ・正会員（大学院生・ポストドクター）が行う挑戦的課題研究について、1件につき50万円、10件程度を助成する予定である。

- ・正会員（除く大学院生・ポストドクター）が行う指定課題研究について、1件につき100万円、5件程度を助成する予定である。指定した課題にふさわしい研究を助成することを検討している。
- ・資金の確保等を行った。
- ② 規程（研究助成選考委員会の新設を含む）、細則、申し合わせ事項を作成し、理事会の承認を得た。
- ③ 研究助成選考委員を提案し、理事会で決定された。
- ④ 内閣府公益認定等委員会への変更認定の申請（2022年3月30日）し、7月に承認される予定である。
- ⑤ 助成システム（申請・審査/選考・採択/不採択・報告等）の選定、作成を行っている。
- ⑥ 今後のスケジュールに関する共有
  - ・2022年7月以降にインターネット上で新規募集が開始される予定。会員へはメール等で連絡することを検討している。11月に選考、12月に結果を通知し、2023年4月に助成を開始する予定であることが共有された。

## (22) 他機関との連携活動

### ① 日本看護系学会協議会（JANA）＜法橋尚宏副理事長＞

- ・2021年5月29日（土）に、書面総会資料を踏まえての各社員学会との意見交換会に出席した（オンライン開催）。
- ・2021年度社員総会に書面議決書で出席した（2021年6月19日（土）開催）。議案は、2020年度決算報告、2020年度会計監査報告、2021-2022年度役員選挙による新役員の選任に関することであった。
- ・医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2021年度は10名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については2016年度から行ってきた。併せて毎年開催の協力学会説明会にも参加した（2022年3月22日オンラインにて）。
- ・その他、JANAから提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

### ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）＜大久保暢子理事＞

- ・看保連2022年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ4名（6件）の応募があり、社会貢献委員会で審査し1名が承認となった。

### ③ 日本学術会議＜法橋尚宏副理事長＞

- ・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

### ④ その他の機関＜法橋尚宏副理事長＞

- ・対応すべき事案はなかった。

## (23) 選挙管理委員会＜中村幸代理事＞

- ・第3回選挙管理委員会を2021年4月19日に開催し、同年3月1日に行われた理事候補者選挙の開票結果から理事候補者名簿の作成を行い、2021年5月21日に開催の第1回理事会に理事候補者名簿を提出した。

- ・現在は選挙準備を進めている段階である。

## 質疑応答

- ・正会員数と地区会員数の差について。（吉田様）
- ・資料の正会員数は2022年3月31日現在、地区会員数は、2022年4月現在で記載されており、日付の違いにより生じたことが理由として回答された。（有田事務所長）

## V. 審議事項

審議に先立ち、オンラインによる出席者127名を確認し、議事に入った。

### 第1号議案 2021年度決算の承認および会計監査の報告について

石橋みゆき会計担当理事から2021年度決算について議案書（p.30-42）に基づき説明があった。30ページの貸借対照表について、現金預金が前年度に比べマイナス16,651,715円となっている理由は、固定資産の特定資産に研究助成金資金として3千万円を積み立てたことによる減少であり資産が減少したわけではない。資産合計は、238,060,508円であり、対前年で13,120,192円の増となった。負債合計は31,285,126円、資産合計から負債合計を差引いた正味財産合計は、206,775,382円であり、前年度より15,354,970円の増となった。

32～33ページは正味財産増減計算書であり、これは1年間の収益と支出を表しており、34～35ページにその内訳表があり、こちらについて次のとおり説明があった。

収入で一番大きいのが正会員会費で、公益目的事業会計に50,220,000円、法人会計に50,220,000円と、予算書どおり5対5に振り分けて計上している。公益目的事業会計の経常収益の合計は92,800,264円、収益事業等会計の広告販売事業収益は2,344,000円であり、法人会計を含む経常収益の合計は145,364,365円であった。

一方、公益目的事業会計の事業費の小計額が99,045,643円であり、遊休財産はこの金額を超えることはできない。公益目的事業会計の経常収益の小計92,800,264円から公益目的事業会計の事業費計の小計99,045,643円を差引いた公益目的事業会計の当期経常増減額は△6,245,379円とマイナスになっており、まずは収支相償の条件を満たしている。

収益事業等会計の収支差額が1,375,974円となっているが、JANSは公益社団法人であるため、一定の計算式により1,557,711円を収益事業等会計から公益目的事業会計に振り替えることができ、結果として公益目的事業会計の増減額は△4,687,668円となり、収支相償は満たしており節税にもつながっていることがここから理解できる。

なお、表の右下にある正味財産期末残高は206,775,382円であり、貸借対照表の正味財産期末残高と一致している。

36ページの財務諸表に関する注記には、会計方針や特定資産の状況、固定資産の償却状況や附属明細書が記されている。資料38ページの財産目録は貸借対照表の流動資産と流動負債の明細を示したものである。この預金等の残高は月末に会計担当理事が通帳の金額と帳簿残高の照合により確認しており、この作業は監事から付託を受け行っている。

40ページの事業活動収支計算書について、現在の公益法人会計基準の財務諸表には入っていないが、1年間の収支とお金の流れを示している計算書で、委員会支出などはこちらを参考とすると良い。主に注釈のついている箇所の説明があった。（以下を参照）

事業活動入の会費収入について

- ・※1 正会員数が1万44名、うち未納者233名のため、9,811名分の会費を計上した。
- ・※2 賛助会員会費は日本看護協会出版会が2口、医学書院、南江堂、へるす出版が各1口で合計5口25万円を計上した。

#### 公益目的事業収入

- ・※3 JANSセミナー収入 オンライン開催で参加者内訳は資料のとおり。
- ・※4 著作権の収入 看護ケア開発・標準化委員会の編集により診療ガイドラインを刊行し、著作権料が増えている。
- ・※5 学会誌収入その他 和文誌の掲載料、英文誌超過ページ料の課金が計上された。
- ・※6 JJNSセミナーはオンラインで開催、内訳どおりの収入があった。
- ・※7 学術集会の参加費収入 オンライン開催に切り替わったが参加者が3,627名であった。加えて助成金として40万円を受けた。

#### 収益事業等収入（広告販売収入）

- ・学術集会の広告掲載料やランチョンセミナーとして2,344,000円が計上された。

#### 法人会計収入

- ・預金利息で101円の計上となった。

以上から、事業活動の収入合計は143,034,365円となった。

事業活動支出としては、公益目的事業の支出の合計が72,550,117円であった。

予算執行率は78.4%になっているが、学術振興事業費の支出は48.3%の執行率であった。

#### 公益目的事業支出

- ・※8 摂食嚥下ガイドラインの他のガイドライン制作を2022年度に繰越しているため予算減。
- ・※9 いくつかの委員会が当てはまる。委員会活動はされてはいるもののCOVID-19の影響により交通費や会議費等が不要のオンライン開催等であったため、執行額が少なかったことによる予算減。
- ・学会誌事業費支出が32,755,731円、学術集会の支出は30,088,306円、市民講座等事業費支出が894,465円の計上となった。

管理費支出は合計で53,361,809円となった。

- ・※18 19 学会総会、社員総会、理事会は、いずれもオンライン開催となったため、支出が抑えられた。
- ・※20 委託費支出は法人として必要な経費を使用し、7,757,263円の計上となった。
- ・※21 旅費交通費支出は学術集会のオンライン化で出張がなく、9,705円の支出にとどまった。
- ・※22 賃借料支出 複合機の更新によるリース料の変更により4,438,711円を計上し155,711円の予算超過となった。
- ・※23 24 租税公課支出510,468円、負担金（団体、協議会の年会費）支出430,000円であった。
- ・※25 寄付金支出 ユニセフに行ったウクライナへの緊急募金寄付の500万円が計上されている。

事業費支出と管理費支出を合わせると、128,202,326円が今年度の事業活動支出の合計となり、事業活動収支差額は14,832,039円で、収入が支出よりもこの金額だけ多いことを表している。

42ページの事業活動収入額および事業活動支出額と収支差額の表について、事業活動収入

は、会費収入および学術集会収入の割合が大きく、事業活動支出額に比べて収支差額が大きい項目は、一番は管理費（事務所維持費）であり、続いて、学会誌発行費支出、学術集会当年度開催であった。

決算説明後、南監事から資料に基づき、会計監査の報告があった。

はじめに、監査は南監事、村嶋監事の2名で、石橋理事、有田事務所長、経理職員、中村コンサルティングオフィスの中村会計士の立ち会いのもと、理事及び職員と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境整備に努めるとともに、理事会及びその他重要な会議に出席し、理事及び職員から職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類を閲覧し、法人事業所において、業務及び財産の状況を調査した結果である旨の説明があった。

会計帳簿に関しては、関連する資料の提示を受け、当該事業年度に関わる財務諸表および収支計算書について監査した。その結果、事業報告は、法人の状況を正しく示しているものと認め、理事会はコロナ禍にも関わらず、活発な事業を展開していたことが報告された。

また、財務諸表の監査結果に関しては、法人の財産および損益の状況、すべての重要な点において、適切に表示しているものと認め、監査上は問題がないことが報告された。

一方、遊休財産に関する指摘があった。2021年度は前年度に引き続き収入増に比して、COVID-19の影響による事業費の減少により、遊休財産が増額している。しかし、3千万円を研究助成資金としたため、遊休財産限度額には至らなかった。2022年度の学術集会は、ハイブリッド開催で企画されるなど、従来の会場開催に戻ってきているが、引き続き遊休財産の増額には注意し、事業活動を推進することが重要であるとの意見が述べられた。また、遊休財産をコントロールするためには、計画どおり事業を行い、会計管理を維持していくことが大事であることが述べられた。最後に、監査は2022年5月15日に行い、署名捺印したことが報告された。

議長は決算報告に関して意見や質問を促したが特になく、本件についてZoom上にて承認の可否を求めたところ、定款第23条第1項に基づき出席代議員の過半数以上で承認された。

## 第2号議案 2022年度事業計画の変更（案）と補正予算（案）について

中村理事より、2022年度事業計画の変更案（p.47）について、以下の3つの変更案の説明および補正予算については石橋理事から提案があった。

### 1. 研究助成選考委員会について

2023年度から研究助成を行うため、2022年度に研究助成選考委員会を発足したいと考えている。併せて、2022年度に募集と申請、選考、採択までのプロセスに関するシステムを導入するため、450万円を計上することが提案された。

### 2. 第42回日本看護科学学会学術集会について

当初は、一部をオンライン配信とするハイブリッド開催を予定していたが、現在のコロナの状況では、現地参加が難しい場合も考えられ、会場発表とオンライン配信（オンデマンド）の2種類から選ぶことのできる本格的なハイブリッドに変更するため予算等を1,065.1万円増額することが提案された。

### 3. 社会貢献委員会について

次世代育成・発掘事業：「人の幸福につながる科学を探求しませんかー看護学への招待」、「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」についての動画作成を行うため、予算を350万円増額することが提案された。



堀内理事長より、3つの変更案に関する予算計上にあたり、複数の業者からの見積もりやコンペティションなどを行い、最終的に決定したことについて追加説明があった。

また、石橋理事より、2022年度事業活動収支補正予算案（p.48-49）について、説明があった。事業活動支出の①公益目的事業支出の研究助成選考委員会は、予算額は0円だが、研究助成に関するシステム導入費用として、補正予算に4,500,000円を計上した。2番目に、当年度開催学会のJANS42が本格的なハイブリッド開催へ変更するため、予算を62,208,000円に変更した。加えて、懇親会運営費支出のアトラクションに関する費用として、予算額を2,068,000円から2,288,000円へ変更した。3番目に、社会貢献委員会支出において、次世代育成動画の制作費用として、3,500,000円を計上し、予算を4,477,000円に変更した。

議長は2022年度事業計画の変更案および補正予算案に関し、意見や質問を促したところ、浅野様より、研究助成事業選考に関するシステム導入について、次年度以降のランニングコストに関する質問があり、法橋副理事長より、3社からの見積もりおよびプレゼンテーションを受け、450万円は他社に比べて安価であること、汎用性のあるシステムであり、今後、若手研究者助成に関するシステムやその他にも利用できるシステムであると考えていることが説明された。さらに、有田事務所長より、システム開発費は450万円、次年度からは、年間保守料として80万円程度であることが説明され、質問者からは、理解を得られた。

その他の意見や質問はなく、本件についてZoom上にて承認の可否を求めたところ、定款第23条第1項に基づき出席代議員の過半数以上で承認された。

### 第3号議案 第45回日本看護科学学会学術集会会長の承認について

堀内理事長より、理事会で審議した結果、2025年の第45回日本看護科学学会学術集会会長候補者として、新潟大学の有森直子先生を推薦することが説明された。これまでに新潟県での学術集会の開催実績はなく、有森先生には、本学会活動に長い間ご参与いただいている。

議長は第45回日本看護科学学会学術集会会長に関して意見や質問を促したが特になく、本件についてZoom上にて承認の可否を求めたところ、定款第23条第1項に基づき出席代議員の過半数以上で承認された。

第45回日本看護科学学会学術集会会長承認を受け、有森先生より、以下の挨拶があった。

第45回日本看護科学学会学術集会会長を務めることになり、身の引き締まる思いである。これまでは、JANSの一会員として、学術集会やセミナーへの参加、論文投稿の機会をいただいていたが、今回このような機会をご準備いただいたこと、特に理事、各委員の先生方に感謝したい。自分自身、今の気持ちを忘れず学術集会に取り組み、初めての新潟開催を地元の関係者からも協力を得て進めていきたいと考えている。今後とも支援をいただけるようお願いしたい。

### 第4号議案 名誉会員の承認について

堀内理事長より、名誉会員について、定款上の規定および名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項に従い、林優子氏、菱沼典子氏、2名の承認が提案された。2名の先生方について、以下の紹介があった。

林優子氏は、会員歴は33年、2013年には第33回学術集会会長を勤め、また長きにわたり、役員、代議員を務めていただいている。

菱沼典子氏は、会員歴は41年であり、第22回学術集会会長を勤め、および長きにわたり、役員、代議員を務めていただいている。

議長は、名誉会員の承認に関して意見や質問を促したが特になく、本件についてZoom上にて承認の可否を求めたところ、定款第23条第1項に基づき出席代議員の過半数以上で承認された。

### 第5号議案 定款の一部変更について

堀内理事長より事務所移転理由について、今の事務所のあるビルは築50年が経ち、現在の耐震基準に達していないため、安全な環境で勤務してもらうため移転が必要であると考えた。また、今期、理事長就任時に掲げた将来を見据えた法人運営という点においても、事務所の環境改善による事務処理の効率化を提案していることから事務所の移転について理事会に提案し、承認を得たことの説明があった。また、現時点では、財政的にも比較的余裕があり、今より交通の便が良く複数の駅からアクセスでき、少人数の打合わせも可能な場所を探した結果、神田、秋葉原、東京、淡路町駅からの徒歩圏で優良な物件があり、事務所を現在の文京区から千代田区へ変更したいと考えている。現在は移転の準備をしており、定款第4条の主たる事務所の所在地を変更したいとの説明があった。

議長は、定款の一部変更について意見や質問を促したが特になく、本件についてZoom上にて承認の可否を求めたところ、オンライン出席118名の承認、委任状137名、議決権行使20名と合わせて計275名の承認があり、定款第23条第3項に基づき全代議員数（312名）の3分の2以上で、以下のとおり承認された。

### 記

[定款]

(事務所)

第4条 本会は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。

2 <現行どおり>

[効力発生日]

本総会に先立って開催された理事会（2022年6月19日開催）において決定した主たる事務所の移転日

## VI. その他

今期、12月に開催の第42回学術集会会長、森山美知子先生より以下の挨拶があった。

このたびは多大なる協力、支援をいただき深く感謝している。今回の学会は、コロナ禍においても、実習や学内の様々な行事があっても多くの参加が得られるように完全ハイブリッド開催を予定している。6月16日に演題登録を締め切った。コロナ禍で研究の遂行が難しいという点もあって心配していたが、代議員の先生方に多大な協力をいただき、例年並みの登録数の1086演題を得ることができた。内容については、日本学術会議が進めているデジタルトランスフォーメーション、データサイエンス、国際共同研究の推進や学際的な研究をメインにおきながら、たくさんのシンポジウムやパネルディスカッションを組んでいる。是非、ご参加いただくようよろしくお願ひしたい。今回、コロナで様々な教育、実習や日本の医療制度の問題等が明らかになり、海外ではどのような教育や実習システムを構築したのか、どのようにこのコロナを乗り切ったのかにつ

いても含め、報告する機会としたいと考えている。先生方には引き続き、査読などへの協力をお願いしたい。

## VII. 閉会

出席者は本会全社員312名中、会場参加者と有効委任状および議決権行使で、有効出席者数284名であったことの報告があり、2022年6月定時社員総会は閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め、記名押印する

2022年 8月 9日

議 長                   堀内 成子                   Ⓜ

議事録署名人       多喜田 恵子                   Ⓜ

議事録署名人       長谷川 真澄                   Ⓜ

Ⓜ

Ⓜ

Ⓜ

# 公益社団法人日本看護科学学会 2022年6月定時社員総会 議案書

日 時 2022年6月19日(日) 11:00~13:30(予定)

場 所 オンライン開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

## 【議事次第】

### I. 開会

### II. 理事長挨拶

(英文誌編集長: William L. Holzemer氏, RN, PhD, FAAN 挨拶あり)

### III. 議長指名および議事録署名人の承認

### IV. 報告事項

#### 1. 理事会および社員総会報告

#### 2. 総務報告

#### 3. 2021年度事業報告

(1) 第41回日本看護科学学会学術集会開催

(2) 第42回・第43回日本看護科学学会学術集会準備

(3) 和文誌編集委員会

(4) 英文誌編集委員会

(5) 表彰論文選考委員会

(6) 研究・学術推進委員会

(7) 看護ケア開発・標準化委員会

(8) 若手研究者活動推進委員会

(9) 国際活動推進委員会(世界看護科学学会を含む)

(10) 看護学学術用語検討委員会

(11) 社会貢献委員会

(12) 広報委員会

(13) 看護倫理検討委員会

(14) 利益相反委員会

(15) 研究倫理審査委員会

(16) 災害看護支援委員会

(17) 若手研究者助成選考委員会

(18) 会則等委員会

(19) COVID-19看護研究等対策委員会

(20) 総務委員会

(21) 新規事業: 研究助成の実施に関する準備

(22) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会(JANA)

② 看護系学会等社会保険連合(看保連)

③ 日本学術会議

④ その他の機関

(23) 選挙管理委員会

### V. 審議事項

第1号議案 2021年度決算の承認および会計監査の報告

第2号議案 2022年度事業計画の変更(案)と補正予算(案)について

第3号議案 第45回学術集会会長について(2025年開催)

第4号議案 名誉会員の承認について

第5号議案 定款の一部変更について

### VI. その他

### VII. 閉会

## 公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 堀内 成子

副理事長 法橋 尚宏

理事：池田 真理、石橋 みゆき、井上 智子、江藤 宏美、大久保 暢子、亀井 智子、  
近藤 暁子、須釜 淳子、手島 恵、仲上 豪二郎、中村 幸代、深堀 浩樹、  
宮下 光令

監事：南 裕子、村嶋 幸代

### 名誉会員

阿曾 洋子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋 みどり、  
川村 佐和子、小島 操子、小玉 香津子、近藤 潤子、新道 幸恵、中島 紀恵子、  
中村 恵子、林 滋子、樋口 康子、松野 かほる、矢野 正子、山崎 智子

### 賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(株)へるす出版

(以上、五十音順・2022年4月1日現在)

### 日本看護科学学会学術集会会長

第42回学術集会会長

第43回学術集会会長

第44回学術集会会長

森山 美知子

田中 マキ子

前田 ひとみ

## 社員

### 【北海道】

大日向 輝美  
川村 三希子  
菊地 ひろみ  
今野 美紀  
澤田 いずみ  
城丸 瑞恵  
照井 レナ  
長谷川 真澄  
樋之津 淳子  
平 典子  
松浦 和代  
矢野 理香  
吉田 礼維子

### 【東北】

朝倉 京子  
安藤 広子  
石井 範子  
一戸 とも子  
遠藤 恵子  
大森 純子  
尾崎 章子  
角濱 春美  
木立 るり子  
桑名 佳代子  
小林 淳子  
武田 利明  
鄭 佳紅  
野戸 結花  
原 玲子  
藤田 あけみ  
古瀬 みどり  
宮下 光令  
吉田 俊子

### 【関東A】

飯田 苗恵  
市村 久美子  
牛久保 美津子  
内田 陽子  
岡 美智代  
金子 昌子  
加納 尚美  
神田 清子  
近藤 浩子  
齋藤 基  
佐藤 由美  
鈴木 幸子  
鈴木 純恵

高井 ゆかり  
常盤 洋子  
巴山 玉蓮  
春山 早苗  
廣瀬 規代美  
古谷 佳由理  
松田 安弘  
水野 道代  
村井 文江  
村上 礼子  
安酸 史子  
横山 京子  
六角 僚子

### 【関東B】

荒木田美香子  
飯村 直子  
池崎 澄江  
石橋 みゆき  
上野 まり  
岡田 忍  
数間 恵子  
勝山 貴美子  
金井 PAK 雅子  
黒田 裕子  
小池 智子  
近藤 まゆみ  
齋藤 やよい  
佐藤 禮子  
茂野 香おる  
島袋 香子  
白水 眞理子  
高橋 眞理  
田高 悦子  
手島 恵  
永田 智子  
中山 登志子  
深堀 浩樹  
正木 治恵  
眞嶋 朋子  
増島 麻里子  
水戸 優子  
村上 明美  
村中 陽子  
森 明子  
森 恵美  
湯浅 美千代  
吉田 澄恵  
和住 淑子

渡邊 眞理

### 【東京A】

五十嵐 歩  
大江 眞琴  
大久保 暢子  
大田 えりか  
柏木 聖代  
片岡 弥恵子  
上別府 圭子  
亀井 智子  
戈木クレイグ  
ヒル 滋子  
眞田 弘美  
習田 明裕  
武村 雪絵  
田中 眞琴  
仲上 豪二朗  
中山 和弘  
成瀬 昂  
春名 めぐみ  
堀内 成子  
前田 樹海  
宮本 有紀  
吉田 千文

### 【東京B】

阿部 幸恵  
飯野 京子  
池田 眞理  
井上 智子  
井村 眞澄  
江本 リナ  
大久保 功子  
太田 喜久子  
岡谷 恵子  
柏木 公一  
香春 知永  
亀岡 智美  
川原 由佳里  
北 素子  
草間 朋子  
小松 浩子  
佐々木 幾美  
佐藤 紀子  
田中 美恵子  
筒井 眞優美  
長江 弘子  
本庄 恵子  
守田 美奈子

山内 豊明

吉田 みつ子

綿貫 成明

### 【甲信越】

會田 信子  
浅川 和美  
有森 直子  
遠藤 みどり  
定方 美恵子  
征矢野あや子  
中込 さと子  
平澤 則子  
安田 貴恵子  
八尋 道子

### 【北陸】

石垣 和子  
大乗 麻由美  
加藤 眞由美  
北岡 和代  
須釜 淳子  
長谷川 智子  
平松 知子  
松井 優子  
丸岡 直子

### 【東海】

明石 恵子  
浅野 みどり  
足立 はるゑ  
足立 久子  
安藤 詳子  
池松 裕子  
市江 和子  
大石 ふみ子  
大島 弓子  
太田 勝正  
大西 文子  
岡田 由香  
片岡 純  
片山 はるみ  
門間 晶子  
篠崎 恵美子  
島内 節  
白尾 久美子  
白鳥 さつき  
杉浦 太一  
鈴木 みずえ  
多喜田 恵子  
奈良間 美保

野口 眞弓

深田 順子

藤井 徹也

古田 加代子

本田 育美

操 華子

箕浦 哲嗣

三吉 友美子

柳澤 理子

山田 紀代美

山田 聡子

渡邊 順子

### 【近畿A】

赤澤 千春  
秋元 典子  
東 ますみ  
網島 ひづる  
池田 清子  
石井 豊恵  
井上 智子  
ウィリアムソン 彰子

内布 敦子

江川 幸二

江川 隆子

大野 かおり

大野 ゆう子

片田 範子

勝原 裕美子

工藤 美子

久米 弥寿子

グライナー 智

恵子

黒田 裕子

洪 愛子

河野 あゆみ

近藤 麻理

清水 安子

鈴木 久美

瀬戸 奈津子

高橋 弘枝

玉木 敦子

都筑 千景

泊 祐子

檜木野 裕美

二宮 啓子

簀持 知恵子

林 千冬

法橋 尚宏

前川 幸子

牧本 清子

松田 宣子

丸 光恵

### 【近畿B】

吾妻 知美

伊波 早苗

岩脇 陽子

遠藤 俊子

岡山 寧子

桂 敏樹

河原 宣子

竹之内 沙弥香

内藤 知佐子

西垣 昌和

西田 直子

藤本 幸三

星野 明子

松月 みどり

吉岡 さおり

若村 智子

### 【中国・四国】

吾郷 美奈恵

畦地 博子

井伊 久美子

伊東 美佐江

内田 宏美

瓜生 浩子

大川 宣容

岡田 淳子

雄西 智恵美

折山 早苗

掛田 崇寛

片山 陽子

岸田 佐智

久保田 聡美

小山 眞理子

陶山 啓子

祖父江 育子

竹崎 久美子

長戸 和子

中西 純子

中山 洋子

野嶋 佐由美

野本 百合子

原 祥子

百田 武司

深田 美香	<b>【九州・沖縄】</b>	神里 みどり	中嶋 恵美子	三橋 睦子
藤田 佐和	飯野 英親	金城 芳秀	永松 有紀	宮園 真美
南 裕子	宇佐美 しおり	国府 浩子	野間口 千香穂	宮林 郁子
宮下 美香	宇都 由美子	斉藤 ひさ子	橋口 暢子	村嶋 幸代
森下 安子	江藤 宏美	正野 逸子	日高 艶子	村田 節子
森本 美智子	大池 美也子	竹熊 千晶	藤田 君支	
森山 美知子	岡崎 美智子	谷口 初美	前田 ひとみ	
薬師神 裕子	尾形 由起子	田村 やよひ	益守 かづき	
山田 覚	影山 隆之	長家 智子	松浦 賢長	

以上、312名  
地区別  
五十音順

(2022年4月1日現在)

# 公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

## 2021年度第1回理事会

日時：2021年5月21日（金）13：00～15：40

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事14名、監事2名、第41回学術集会会長、選挙管理委員長 ※全出席者オンライン参加

### 〈審議事項〉

1. 第41回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
2. 選挙報告
3. 総務会からの提案
4. 2021年6月定時社員総会の議案の承認と進行分担表の確認
5. 各委員会からの報告および審議事項
  - 1) 和文誌編集委員会
  - 2) 英文誌編集委員会
  - 3) 表彰論文選考委員会
  - 4) 研究・学術推進委員会
  - 5) 看護ケア開発・標準化委員会
  - 6) 若手研究者活動推進委員会
  - 7) 国際活動推進委員会
  - 8) 看護学学術用語検討委員会
  - 9) 社会貢献委員会
  - 10) 広報委員会
  - 11) 看護倫理検討委員会
  - 12) 利益相反委員会
  - 13) 研究倫理審査委員会
  - 14) 災害看護支援委員会
  - 15) 若手研究者助成選考委員会
  - 16) 会則等委員会
  - 17) COVID-19看護研究等対策委員会
  - 18) 総務委員会
  - 19) 他団体との連携について
    - ① 日本看護系学会協議会



② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

③ 日本学術会議

④ その他の団体

6. 入会希望者の承認

7. その他

### 2021 年度第 2 回理事会

日 時：2021 年 6 月 13 日（日）10：00～10：50

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 15 名、監事 2 名 ※全出席者オンライン参加

#### 〈審議事項〉

1. 2021 年 6 月定時社員総会の議案と進行分担表の確認
2. 委員会からの報告および審議事項 ※報告または審議のある委員会のみ
3. 入会希望者の承認
4. その他

### 2021 年度臨時理事会

日 時：2021 年 6 月 13 日（日）13：30～14：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 15 名、監事 2 名 ※全出席者オンライン参加

#### 〈審議事項〉

1. 理事長（代表理事）、副理事長の承認

### 2021 年度臨時理事会

日 時：2021 年 7 月 16 日（金）14：00～16：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 42 回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

#### 〈審議事項〉

1. 第 42 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 今期理事会の方針について
3. 会務分掌案および委員の承認
4. 2021 年度各委員会予算・執行状況
5. 委員会からの報告および審議事項 ※報告または審議のある委員会のみ
6. JANS41 の理事会企画に関する確認

7. 今期理事会の今後の予定について
8. 入会希望者の承認
9. その他

### 2021 年度第 3 回理事会

日 時：2021 年 9 月 6 日（月）13：00～16：10

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 41 回学術集会会長、第 42 回学術集会会長

※全出席者オンライン参加

#### 〈審議事項〉

1. 第 41 回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
2. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 会計報告（各委員会予算執行状況）
5. 各委員会からの報告および審議事項
6. 入会希望者の承認

### 2021 年度第 4 回理事会

日 時：2021 年 10 月 25 日（月）13：00～16：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 41 回学術集会会長、第 42 回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

#### 〈審議事項〉

1. 第 41 回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
2. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 12 月社員総会の議案の承認、進行分担表の確認
5. 第 41 回学会総会の議案の承認、進行分担表の確認
6. 会計報告（2021 年度委員会活動費執行状況）
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 入会希望者の承認

### 2021 年度第 5 回理事会

日 時：2021 年 12 月 3 日（金）13：58～15：40

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 15 名、監事 2 名 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案について
2. 2021 年 12 月社員総会の資料と進行分担表の確認
3. 第 41 回学会総会の資料と進行分担表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 入会希望者の承認
6. その他

**2021 年度第 6 回理事会**

日 時：2022 年 2 月 24 日（木）13：00～15：57

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 13 名、監事 2 名、第 41 回学術集会会長、第 42 回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第 41 回日本看護科学学会学術集会（JANS41）報告
2. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 2021 年度決算見込みと会費配分率および予算執行状況について
5. 各委員会からの報告および審議事項
6. 2022 年 6 月定時社員総会の開催について
7. 入会希望者の承認
8. その他

**書面理事会**

日 時：2022 年 3 月 9 日（水）

（理事会の決議があったものとみなされた日：2022 年 3 月 11 日）

出席者：理事 15 名

〈審議事項〉

「ウクライナ侵攻による戦争災害に対する平安と保護の願い」の声明と寄付について

1. 日本看護科学学会理事長の声明の発信
2. 日本看護科学学会としてウクライナ人道支援の寄付を行う

# 公益社団法人日本看護科学学会 社員総会報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

## 2021年6月定時社員総会

日時 2021年6月13日(日) 11:00～13:30

場所 日本看護科学学会事務所ほか(オンラインによる開催)

総社員数: 312名

出席社員数: 260名(オンライン出席124名 委任状136名)

### I. 開会

### II. 理事長挨拶

### III. 議長指名および議事録署名人の承認

### IV. 報告事項

#### 1. 理事会および社員総会報告

#### 2. 総務報告

#### 3. 2020年度事業報告

(1) 第40回日本看護科学学会学術集会開催

(2) 第41回・第42回日本看護科学学会学術集会準備

(3) 和文誌編集委員会

(4) 英文誌編集委員会

(5) 表彰論文選考委員会

(6) 研究・学術推進委員会

(7) 看護ケア開発・標準化委員会

(8) 若手研究者活動推進委員会

(9) 国際活動推進委員会(世界看護科学学会を含む)

(10) 看護学学術用語検討委員会

(11) 社会貢献委員会

(12) 広報委員会

(13) 看護倫理検討委員会

(14) 利益相反委員会

(15) 研究倫理審査委員会

(16) 災害看護支援委員会

(17) 若手研究者助成準備委員会

(18) 会則等委員会

(19) COVID-19看護研究等対策委員会

(20) 総務委員会

(21) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会(JANA)

② 看護系学会等社会保険連合(看保連)

③ 日本学術会議

④ その他の機関

(22) 選挙管理委員会

### V. 審議事項

第1号議案 理事候補者の承認

第2号議案 2020年度決算の承認および会計監査の報告

第3号議案 2021年度事業計画変更(案)と補正予算(案)について

第4号議案 名誉会員の承認

### VI. 理事会(2019-2020)からの報告

### VII. 閉会

## 2021年12月社員総会

日 時 2021年12月3日（金）16：00～17：40

場 所 日本看護科学学会事務所ほか（オンラインによる開催）

総社員数：312名

出席社員数：231名（オンライン出席100名 委任状123名 議決権行使8名）

### I. 開 会

### II. 理事長挨拶

### III. 第41回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

### IV. 議長指名および議事録署名人の承認

### V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

### VI. 審議事項

第1号議案 2021年度補正予算（1次・案）の承認

第2号議案 2021年度事業計画変更（案）と補正予算（2次・案）の承認

第3号議案 2022年度事業計画（案）の承認

第4号議案 2022年度予算（案）の承認

第5号議案 第44回日本看護科学学会学術集会会長の承認

### VII. 今期理事会の方針について

### VIII. 閉 会

# 総務報告

## 1. 会員推移 (2021年4月1日～2022年3月31日)

### 1) 正会員数増減

①2021年4月1日正会員数

9,311名 = 2021年3月31日正会員数9,924名 - 2021年度資格喪失者613名  
(自主退会376名、会費未納237名)

②2021年度の入会者

733名 = 新規入会661名 + 再入会72名

③2021年度の死亡喪失者 2名

④会員区分の変更 1名 (正会員から名誉会員)

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員

承認 1名

4) 2022年3月31日現在 会員数

正会員	10,041
名誉会員	18
賛助会員	4
<u>会員総数</u>	<u>10,063</u>

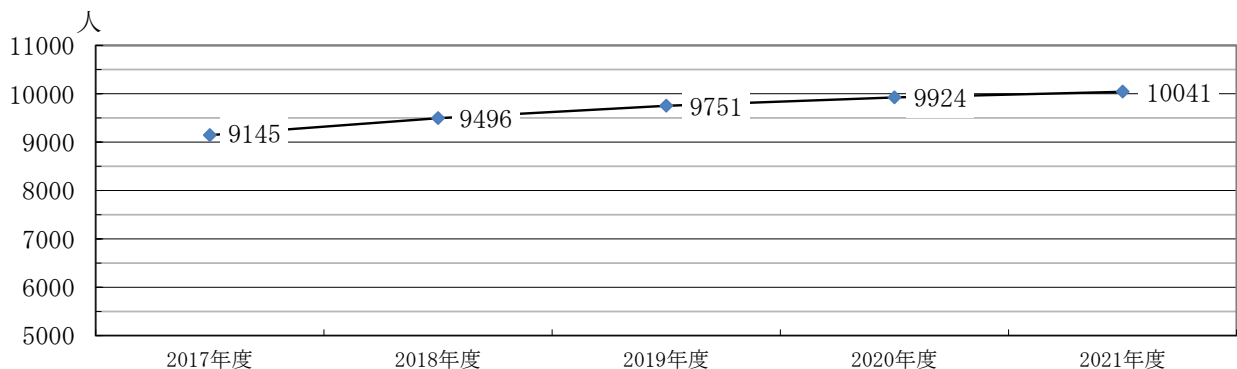
## 2. 地区別正会員数 (2022年4月1日 会員数9,389名)

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道	北海道	372	北陸	富山	89	九州・沖縄	福岡	441	
				石川	166		佐賀	52	
東北	青森	126	東海	福井	60		長崎	67	
				岩手	77		熊本	68	
				宮城	174		大分	46	
				秋田	67		宮崎	63	
				山形	64		鹿児島	50	
				福島	48		沖縄	87	
関東A	茨城	135	近畿A	大阪	611		宛先不明者		26
				栃木	127		合計	9,389	
				群馬	171				
				埼玉	348				
関東B	千葉	504	近畿B	滋賀	104				
				神奈川	569	京都	253		
東京A	※1	659	中国・四国	奈良	97				
				和歌山	52				
東京B	※2	763	942	鳥取	41				
				岡山	175				
広島	284								
山口	44								
徳島	59								
香川	60								
愛媛	98								
高知	129								
甲信越	新潟	116							
313	長野	123							
	山梨	74							

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

## 3. 正会員数の推移 (年度別)



公益社団法人日本看護科学学会 2021-2022年度委員会名簿

※所属機関名は2022年5月20日現在の会員登録データに基づいています

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長/編集長	宮下光令	東北大学大学院
	編集長	河野あゆみ	大阪公立大学
	編集長	春名めぐみ	東京大学大学院
		會田信子	信州大学
		宇佐美しおり	四天王寺大学
		片山はるみ	浜松医科大学
		勝山貴美子	横浜国立大学
		瀬戸奈津子	関西医科大学
		征矢野あや子	京都府立医科大学
		田中真琴	東京医科歯科大学
		玉木敦子	神戸女子大学
		成瀬昂	東京大学
		春山早苗	自治医科大学
		松井優子	公立小松大学
		宮本有紀	東京大学大学院
		矢野理香子	北海道大学
		吉田俊亮	聖路加国際大学
		落合亮太	横浜市立大学
		飯岡由紀子	埼玉県立大学
		小野若菜子	聖路加国際大学
	梶井文幸子	東京慈恵会医科大学	
	キ夕藤伊織	国立成育医療研究センター	
	佐藤若麻輝	東京大学国際学院	
	新細田泰子	名古屋大学大学院	
	師岡友紀子	大阪公立大学	
	森本悦子	武庫川女子大学	
	吉田美香子	東甲北女大	
英文誌編集	委員長	WILLIAM L. HOLZEMER	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing
	理事	江藤宏美	長崎大学
	理事	堀内成子	聖路加国際大学
		近藤暁子	東京医科歯科大学
		朝倉京子	東北大学
		池松裕子	東修文大
		北岡和代	公立小松大学
		グライナー智恵子	神戸大学
		野口真弓	日本赤十字豊田看護大
		藤田君支子	九州大学
		操華子	静岡県立大
		池田理恵子	和歌山県立医科大
		石原逸子	神戸市看護大
		梅田麻希	兵庫県立大
		加藤美鈴	神戸市看護大
		グレッグ美鈴	名桜大学
		コリー紀代	北海道大学
		齋藤あ奈	北新千
		佐藤由美	横濱市立大
		千葉理恵	神戸大学
	月野ルミ	東京医科歯科大	
	角田秋鈴	東京有明医療大	
	中村美代子	東京慈恵会医科大	
	深山昭子	東京慈恵会医科大	
	丸山あけみ	松陰大	
	吉永尚紀子	宮崎大	
	朝澤恭子	東京医療保健大	





委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
看護学学術用語検討	委員長	大久保暢子 大田えり 大藤田佐和 本庄恵子 大村佳代子 住谷ゆかり 田中晴佳 横田慎一郎 蜂ヶ崎令子	聖路加国際大学院 聖路加国際大学 聖路加国際大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学
	会計		
社会貢献	委員長	大久保暢子 有森直子 角濱春美 水戸優子 木下真吾 高橋真恵子 寺本千恵 中谷信江 松石雄二 吉田みつ子	聖路加国際大学院 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学
	会計		
広報	委員長	法橋尚宏 岡田優子 水戸下美香 宮田マキ子 田中香子 吉副島堯史	神奈川大学 神奈川大学 神奈川大学 神奈川大学 神奈川大学 神奈川大学
	会計		
看護倫理検討	委員長	手島直恵子 有森淳子 岡田さつき 白鳥文江 村井若麻理 鶴田中真木	千代田大学 千代田大学 千代田大学 千代田大学 千代田大学 千代田大学
	会計		
利益相反	委員長	井上智子 石橋みゆき 會田信子 鄭森下純子 友納理緒	国際医療福祉大学 国際医療福祉大学 国際医療福祉大学 国際医療福祉大学 国際医療福祉大学
	外部委員		
研究倫理審査	委員長	井上智子 茂野香おる 吾郷美奈恵 隈本邦彦 戸塚理実 友納理緒	国際医療福祉大学 国際医療福祉大学 国際医療福祉大学 国際医療福祉大学 国際医療福祉大学 国際医療福祉大学
	外部委員		
災害看護支援	委員長	近藤暁子 河原宣子 牛久保美津子 近藤麻理子 神今津陽子	東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学
	会計		
若手研究者助成選考	委員長	亀井智子 池田真理美 江藤宏美子 須釜淳子 仲上豪二朗 深堀浩樹 宮下光令 グレッグ美鈴彦	聖路加国際大学院 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学 聖路加国際大学
	外部委員		



# 公益社団法人 日本看護科学学会 2021 年度事業報告

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

## (1) 第 41 回日本看護科学学会学術集会開催

- ・第 41 回日本看護科学学会学術集会 (JANS41) を百瀬由美子学術集会会長のもと、2021 年 12 月 4 日・12 月 5 日の Zoom・LIVE 配信を中心に 11 月 19 日～12 月 28 日までオンデマンド配信を含めオンライン (Web) にて開催した。メインテーマは「共創による新たな看護科学の可能性」、参加者総数 3,627 名であった。
- ・最終演題数 908 題 (口演 226 題、示説 625 題、English Session 16 題、交流集会 日本語 40 題・英語 1 題)、ランチョンセミナー 6 件、市民公開講座「感染症流行時の災害に備える～社会的弱者の安全と健康を守る～ (愛知県立大学 看護学部 教授：清水宣明氏)」参加者数 635 名であった。

## (2) 第 42 回・第 43 回日本看護科学学会学術集会準備

- ・第 42 回日本看護科学学会学術集会 (JANS42) を森山美知子学術集会会長のもと、2022 年 12 月 3 日から 12 月 4 日の 2 日間、広島国際会議場他にて現地開催を中心とし、一部ハイブリッドで開催予定である。メインテーマは「ケアサイエンスの構築に向けて看護科学の深化と発展」である。
- ・第 43 回日本看護科学学会学術集会 (JANS43) を田中マキ子学術集会会長のもと、2023 年 12 月 9 日・10 日の 2 日間、海峡メッセ下関他にて開催予定である。

## (3) 和文誌編集委員会 (宮下光令理事)

学会誌 (日本看護学会誌) の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

### ① 日本看護科学学会誌 (電子ジャーナル) の発刊

- ・日本看護科学学会誌 41 巻をオンラインで発刊した。
- ・2021 年 1 月～12 月の投稿数は、256 編であった (前年は 193 編)。
- ・第 41 巻 (2021 年 1 月～12 月) 随時掲載の論文数は、論壇 1 編、総説 7 編、原著論文 81 編、短報 2 編、資料 14 編、その他 0 編の計 105 編であった (前年は、論壇 0 編、総説 8 編、原著論文 59 編、短報 0 編、資料 10 編、その他 0 編の計 77 編)。2021 年 1 月～12 月における採択率は 41.0%であった。
- ・論文公開時には会員に向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・表彰論文選考に参画した。

### ② 更なる投稿規程等の見直しに関する検討

- ・2021 年 3 月に修士論文・博士論文を含んだ更なる投稿数の増加、査読に要する日数の短縮化などを目標とした投稿規程などの全般的な見直しに着手した。

### ③ 第 41 回学術集会にて交流集会 『査読者や編集委員の視点からみた JANS 和文誌に論文を載せるコツ』をこっそり教えます』を開催

(2021 年 12 月 5 日、14:50～15:50、Zoom・LIVE 配信)。

委員会開催：2 回 (2021 年 10 月 2 日、2022 年 1 月 24 日) オンライン

#### (4) 英文誌編集委員会（江藤宏美理事）

日本から世界へ学術情報を発信するため 2004 年から英文誌 (Japan Journal of Nursing Science「JJNS」) の発行を開始、2014 年からは online-only journal として、年 4 回の発行を実施。また JJNS セミナーも開催。

##### ① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.18 をオンラインで発刊した。
- ・ 2021 年 1 月～12 月の投稿論文数は、708 編であった（前年は 704 編）。
- ・ 表彰論文選考に参画した。
- ・ 2020 年の Impact Factor は、1.418 であった（2021 年 6 月発表による）。

##### ② 迅速査読の導入

2020 年 3 月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した（博士号の学位申請、または、博士号取得後 1 年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象）。

（2020 年 20 編・2021 年 30 編・2022 年 3 月 31 日現在、8 編）

##### ③ 出版社との契約更新内容検討中

- ・ 2022 年以降の契約更新プロポーザルを受け取り、2021 年 12 月に 2022-2026 年の出版について、Wiley と契約更新した。

##### ④ JJNS セミナーの開催

- ・ JJNS セミナー： Improving Your Success at Publishing in English 2021 をオンラインで開催した（2021 年 12 月 6 日～2022 年 1 月 31 日）。

委員会開催：2 回（2021 年 8 月 3 日、2022 年 2 月 11 日）

#### (5) 表彰論文選考委員会（亀井智子理事）

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

##### ① 表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。

- ・ 表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文 17 編（和文 8 編・英文 9 編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文 8 編（和文 2 編 英文 6 編）を審査リストとして作成した。
- ・ 2021 年 9 月 7 日に、全代議員、役員 314 名にメールにて採点を依頼した。
- ・ 10 月 3 日までに返信された 215 件について評価点の集計を行った。回収率 68.5%(215/314)。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞 2 編、奨励賞 1 編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

##### 【優秀賞】

- ◆ Deep learning-based classification of rectal fecal retention and analysis of fecal properties using ultrasound images in older adult patients  
Masaru Matsumoto, Gojiro Nakagami, Mikako Yoshida, Yuka Miura, Junko Sugama, Hiromi Sanada  
JJNS, 2020, Volume 17, Issue 4(e12340)

- ◆ Safety and the effectiveness of a new education program for nurses to assess swallowing function using fiberoptic endoscopic evaluation of swallowing (FEES)

Mikako Yoshida, Yayoi Kamakura, Yuka Miura, Yohei Okawa, Hiromi Sanada

JJNS, 2020, Volume 17, Issue 2(e12313)

#### 【奨励賞】

- ◆ Incidence, risk factors, and assessment of induration by ultrasonography after chemotherapy administration through a peripheral intravenous catheter

Mari Abe-Doi, Ryoko Murayama, Chieko Komiyama, Hiromi Sanada

JJNS, 2020, Volume 17, Issue 3(e12329)

#### ② 他組織からの表彰候補者の推薦

- ・ 山上の光賞（第7回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1名を推薦した。
- ・ 日本学術振興会賞（第18回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、2名を推薦した。
- ・ SGH 看護特別賞（第19回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1名を推薦した。

#### ③ 学術集会演題表彰の実施

第41回学術集会において演題表彰を実施した。

賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」とし、選考は2段階で行った。第1段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者2名以上による採点を行い、上位10名を選考した。第2段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会で主に採点をして最終選考を行い、閉会式で表彰を行った。

#### 【最優秀演題口頭発表賞】

- ◆ 看護組織向け日本語版ダイバーシティ風土尺度の信頼性・妥当性の検証  
寿々木 剛志、木田 亮平、武村 雪絵

#### 【優秀演題口頭発表賞】

- ◆ 熱布バックケアを体感する反復練習により編み出された看護学生の工夫  
河合 桃代、茂野 香おる、山田 悦子、坂下 貴子、内山 孝子
- ◆ 主介護者として高齢の母親を介護する息子の Psychological distress  
田中 春菜、グライナー 千恵子
- ◆ 性分化疾患を伴う原発性無月経女性の性自認再構築プロセスへの看護支援  
石見 和世、住吉 智子
- ◆ 非妊娠・非授乳期女性のストレス状態と乳房血液循環に対する背部温罨法の影響  
山下 恵、米田 雅彦、服部 淳子、大原 良子
- ◆ 妊婦が腰痛に対処し得る力を高めるための看護支援  
槻木 直子
- ◆ 糖尿病療養支援においてチームパフォーマンスに関する認識を規定する要因の職種間比較  
杉島 訓子、石松 一真
- ◆ 急性期病院一般病棟における Early Warning System の実装に関する研究  
南條 裕子、林 直子
- ◆ AI とのワークシェアを視野に入れた看護業務の実態調査研究～COVID-19 の影響に着目して～  
駒形 朋子、佐々木 吉子、小笹 由香

#### 【若手最優秀演題口頭発表賞】

- ◆ 重症心身障害児とその親の特別支援学校卒業後の生活に向けた準備項目の検討  
中山 祐一、菊池 良太、川原 妙、山崎 あけみ

#### 【若手優秀演題口頭発表賞】

- ◆ 患者から暴力を受けた精神科新人看護師に対するベテラン看護師が行う支援のプロセス  
重田 ちさと
- ◆ ALS 患者の内的／外的交渉における認知のコントロール：メタ統合法を用いたレビュー  
渡邊 賢治、春山 早苗
- ◆ 在宅療養高齢者の本人らしい end of life のための訪問看護師による家族への意思決定 支援：質的研究  
篠原 真純、目 麻里子、矢坂 泰介、山本 則子
- ◆ 身体拘束を許容された患者の拘束時間軽減に関する介入研究-地域包括ケア病棟で院内デイケアを実施して  
清水 典子、加藤 真由美、正源寺 美穂、久長 正美、桑原 雄三、西村 礼子、尾山 木綿子
- ◆ COVID-19 感染症患者に関わる看護師のメンタルヘルスと離職の意思の関連性と影響要因の検討  
大植 崇、藤後 栄一、大植 由佳、三徳 和子
- ◆ 高齢者の口腔アセスメントのための AI 画像診断モデルの構築  
石黒 未恵、村松 真澄、高橋 尚人
- ◆ 在宅人工呼吸療法中の訪問看護利用者の事故発生状況及び安全対策に関する全国調査  
佐々木 馨子、高橋 佳織、鈴木 美雪、塩ノ谷 朱美、清水 裕子、飯田 苗恵
- ◆ 保育園・幼稚園を対象とした新型コロナウイルス感染症予防に関するアクションリストの実装に向けて  
本田 順子、涌水 理恵、小林 京子、平田 美佳、後藤 あゆみ、望月 梢絵
- ◆ 肢体不自由者と共に生活する家族の災害対策の実際  
菅原 隆成、桑田 弘美

#### 【最優秀演題ポスター発表賞】

- ◆ Covid-19による看護系大学教員の研究活動への影響 -予測分析による属性・ライフスタイル別の特性-  
李 錦純、高橋 芙沙子、川寄 有紀、酒井 ひろ子

#### 【優秀演題ポスター発表賞】

- ◆ 高齢者施設における認知症高齢者の権利を守る日常生活支援尺度の開発  
山地 佳代、征矢野 あや子、深山 つかさ
- ◆ 救急救命士の救急搬送時のコミュニケーションに関する研究  
犬飼 智子、名越 恵美
- ◆ 医療系学生の専門職連携教育ワークショップにおけるコミュニケーションの困難感  
田口 博子、荒川 尚子、山本 司、大屋 富彦、田中 美帆、富井 友香、江尻 晴美、中山 奈津紀、牧野 典子
- ◆ 認知リハビリテーション実施時において遠隔環境下での看護師のかかわりが脳血流量に与える影響  
吉田 良平、樋上 容子、樋口 明里、久保田 正和
- ◆ 食道がん切除術後の鎮静管理下における看護ケアが患者の生理学的指標に与える影響  
河野 孝典、小野 博史、阿部 真幸、中島 一成、梅下 浩司
- ◆ 医療専門職者の質問紙調査によるがん免疫療法看護の質評価指標の妥当性・重要性・実行可能性の検討  
佐藤 富美子、服部 千恵子、吉田 詩織、佐々木 康之輔

- ◆ 就学前の孫を持つ祖父母の孫育児への加担に関する関連要因の検討  
磯山 あけみ、衣川 さえ子
- ◆ 高齢者施設における定住外国人高齢者の EOLC に対する困難さの要因  
堀川 尚子、山本 純子、山本 真理子、矢野 朋子、加藤 亜妃子、田中 春菜

#### 【最優秀演題抄録賞】

- ◆ 入退院を繰り返す成人中期患者への精神科看護師が抱く葛藤  
福浦 善友、舞弓 京子、藤原 由泰、松島 亜希子

#### 【優秀演題抄録賞】

- ◆ COVID-19 拡大状況下における看護研究活動の阻害要因と促進要因の探索  
天野 薫、渡邊 梨央、森本 浩史、佐藤 浩二
- ◆ 認知症を有する高齢者が訪問看護師との相互作用を通して表出する自我発達の様相  
曾根 祐子、正木 治恵、石井 優香
- ◆ 「高齢患者の療養生活に関わる看護師の意思決定支援」の概念分析  
籠島 政江、麻子 竹熊 勝又
- ◆ 関節リウマチ患者の疼痛に影響する心理・社会的要因の検討  
平井 孝次郎、高谷 真由美
- ◆ がん患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの定着を目指した実装  
尾形 由貴子、林 直子
- ◆ 重症心身障害児とその家族の愛着形成過程における影響要因の検討  
田中 陽子、河野 あゆみ
- ◆ 精神疾患が疑われる高校生と家族を支える養護教諭の支援—専門機関との連携を促進する要因—  
有賀 美恵子
- ◆ 日本で周産期を過ごす外国人を支えるピアネットワークの SNS 活用法  
齋藤 真希
- ◆ 熟練看護師が外来で行う肝疾患患者への療養支援のあり様  
高比良 祥子、小林 裕美

委員会開催：3回（2021年8月25日、10月9日、2022年1月19日）オンライン会議

## (6) 研究・学術推進委員会（深堀浩樹理事）

会員の大型研究の推進に関する事業、JANS セミナーの企画・開催、学術集会における委員会の活動の報告、その他の研究・学術推進に関する事業を実施した。

### ① 会員の大型研究の推進に関する事業

- ・ 2020年に日本学術振興会の「学術変革領域研究（A）」の令和3(2021)年度における申請において領域代表者となる意思のある人の募集を行い、1件を採択した。さらにこの研究計画による公募に「計画研究代表者」として参加を希望する人を募集し12件を採択した。
- ・ 領域代表者、研究・学術推進委員会 委員、計画研究代表者での検討を経て2021年1月25日に、領域代表者が令和3(2021)年度 学術変革領域研究(A)「人々が抱える生きにくさの解放的変容を可能にする意味立脚型医療学（領域略称名:生きにくさの変容）」の領域計画書を日本学術振興会に提出するに至った。

- ・2021年5月7日に「人々が抱える生きにくさの解放的変容を可能にする意味立脚型医療学」はヒアリング対象研究領域とならなかったとの通知を受け、2021年9月17日に審査結果の所見を受け取った。
- ・上記と同様のメンバーで、令和4(2022)年度 学術変革領域研究(A)「人々が抱える生きにくさの変容を可能にする意味立脚型医療学(領域略称名:生きにくさの変容)」を2021年10月5日に日本学術振興会に提出した。提出に際しては、研究メンバーでの検討を研究・学術推進委員会が支援した。また、民間業者による領域申請書への科研費申請支援(申請書レビュー)を受けた。提出後に、過去に大型研究の採択経験のある研究者へのヒアリングを行った。
- ・2022年1月28日に「人々が抱える生きにくさの変容を可能にする意味立脚型医療学(領域略称名:生きにくさの変容)」はヒアリング対象領域とならなかったとの通知を受けた。
- ・上記の活動に加えて新たに「特別推進研究」「学術変革領域研究(A)」「学術変革領域研究(B)」「基盤研究(S)」「基盤研究(A)」へ研究代表者として申請を予定している会員への支援として「科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト」を開始し、令和3(2021)年12月17日-令和4(2022)年1月31日に申請を受け付け2件の応募があった。

## ② JANS セミナーの企画・開催

- ・第18回 JANS セミナー「学術の変革をもたらすリサーチ・マインドを高めよう！」を Web 開催した(2021年8月16日~11月30日まで)。受講者数は、328名(会員298名・非会員19名・基礎教育課程学生11名)であった。これまでのセミナーと比べて多くの基礎教育課程学生の参加を実現できた。
- ・第20回 JANS セミナーの企画検討を行った。

## ③ 第41回学術集会での交流集会の企画

- ・第41回学術集会において交流集会「若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得を目指して:研究・学術推進委員会の活動報告と今後の課題」を開催した。(2021年12月5日13:40~14:40、Zoom・LIVE配信)。

## ④ その他の事業

- ・社会貢献委員会、若手研究者活動推進委員会との委員会横断型事業として「オンラインジャーナルクラブの実施」について検討を行い、2022年3月2日にトライアルを実施した。参加者は学部学生3名を含む22名であった。
- ・JANS セミナーのアーカイブ化について検討し理事会に報告した。

委員会開催:5回(2021年5月8日、8月21日、10月11日、11月30日、2022年2月19日) オンライン

## (7) 看護ケア開発・標準化委員会(須釜淳子理事)

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術(看護ケア)を開発・標準化することで Nursing Science の構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組づくりを目指す。

- ① モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014 に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする
- ・2021年6月 南江堂から発刊「看護ケアのための摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する



る診療ガイドライン」冊子体および電子版 定価 2,530 円

- ・社員に冊子体送付、日本語版は JANS ホームページ会員サイトで公開、英語版ガイドラインは JANS 英語ホームページで公開。
- ・JJNS にガイドライン一部を投稿中。
- ・2022 年 3 月 22 日 Minds ガイドラインライブラリに公開。

## ② 2019 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

- ◆「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」佐藤正美代表（東京慈恵会医科大学）
- ・4 つの CQ にそってレビューを実施し、結果を整理している。
- ◆「高齢者排尿誘導ガイドライン」佐藤和佳子代表（山形大学）  
看護ケア開発・標準化委員会委員長とグループ代表、メンバーとで進捗確認を行った（オンライン Zoom）2021 年 8 月 26 日。

## ③ 活動状況の公開

- ・第 41 回学術集会において、シンポジウム「学会主導型看護ケアガイドライン策定の取組 2021」を開催した（2021 年 12 月 5 日 10：10～11：10 Zoom オンライン）。

## ④ 2021 年度新規ガイドラインの結成と支援

- ・公募（2021 年 7 月 20 日～8 月 30 日）を行い、理事会にて決定した（2021 年 9 月 6 日）。  
「看護ケアのための慢性便秘のアセスメントに関する診療ガイドライン」須釜淳子代表（藤田医科大学）
- ・統括委員会（7 名）ガイドライン作成委員会（10 名）を編成し、2021 年 10 月 7 日に統括委員会、10 月 22 日にガイドライン作成委員会を開催（Zoom）した。
- ・SR チームを公募し、19 名を決定した。2022 年 2 月 10 日に SR チーム全体会議を開催（Zoom）し、SR を開始した。

## ⑤ 日本薬理学会との共同学術企画

- ・インスリンボールに関するスコーピングレビューを開始した（2021 年 8 月～）。  
キックオフミーティング 8 月、中間ミーティング 12 月 2 日。
- ・第 41 回学術集会において、シンポジウム「スコーピングレビュー：インスリンボール」を開催した（2021 年 12 月 4 日 9：30～10：30 Zoom）。
- ・看護薬理学カンファレンス 2022 in 福岡（2022 年 3 月 6 日オンライン開催）において、共催シンポジウム「With コロナ時代にリサーチマインドをいかに発揮するか？」を行い、JANS 会員 5 名が司会・発表した。
- ・第 95 回日本薬理学会年会（2022 年 3 月 7 日～9 日 福岡、ハイブリッド開催）において、日本薬理学会・日本生理学会・日本看護科学学会共催シンポジウム「インスリン・糖尿病研究の新展開：基礎から臨床まで」を行い、スコーピングレビューメンバー 1 名が発表した（2022 年 3 月 9 日）。

## **(8) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二朗理事）**

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

### **① 委員会としての活動**

- ・ JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。
- ・ JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は2022年3月現在で計788名である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動の投稿が行われた。
- ・ 日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信をした。

### **② JANS セミナーの開催**

- ・ 第17回 JANS セミナー「看護学研究の社会実装：インプリメンテーション研究とデータサイエンスの潮流」（オンデマンド配信）を開催した（2021年3月22日～5月31日）。受講者数は566名（会員519名・非会員44名・基礎教育課程学生3名）であった。
- ・ 第19回 JANS セミナー「質の高い研究の統合からよりよい看護実践を導く：診療ガイドラインの作成と統合研究」（オンデマンド配信）の申込み・配信を2022年3月23日から開始した（～5月31日まで配信予定）。

### **③ COVID-19 が JANS 会員の教育・研究活動に与えた影響の調査**

- ・ COVID-19 看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を3名選出し、調査を実施した。詳細は COVID-19 看護研究等対策委員会の活動報告に記載。また、会員からの要望の多かった調査データのオープンソース化に向け、まずは共同研究者として参画する枠組みを検討した。
- ・ 2022年3月に第二回調査（Web 調査）を実施した（3月31日回答締め切り）。

### **④ エリア検討会開催支援**

- ・ JANS 若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2021年度に開催されたエリア検討会は、2022年3月5日 第3回中国・四国エリア検討会、2022年3月12日 第2回北関東エリア検討会であった。それぞれの開催報告を JANS 若手の会ホームページ上に掲載した。

### **⑤ エリア・コーディネーター活動の活性化**

- ・ これまでエリア・コーディネーターは全国エリア別での活動が主であったが、担当エリアを越えた交流を促すこと、また、エリア・コーディネーターの意見を学会活動に反映することを目的とし、2022年3月にエリア・コーディネーター合同ミーティングを開催した（2022年3月14日、3月29日の2回に分けて実施、いずれもオンライン開催）。
- ・ エリア・コーディネーター間の交流を促すことを目的に、JANS エリア・コーディネーター用 Slack ワークスペースを開設した。

### **⑥ 広報活動**

- ・ JANS 若手の会のウェブサイトについて、若手研究者活動推進委員会の活動の可視化、若手メーリングリストやイベントの広報、今後の更新のしやすさと汎用性の向上を目的に、ウェブサイトの修正案を作成した。2022年度にかけてウェブサイトの修正を行う。

### ⑦ 若手研究者の国際化に向けて

- ・世界看護科学学会 WANS における、JANS と Thailand Nursing and Midwifery Council (TNMC)、Korean Society of Nursing Science (KSNS)、The Indonesian National Nurses Association (INNA) との合同開催セミナー（2022年8月開催）において、若手研究者活動推進委員よりパネリストを選出した。

### ⑧ 日本心理学会とのコラボレーション

- ・第41回日本看護科学学会学術集会において、「看護科学と心理科学の共創による新たな視点—最新のコミュニケーション研究をめぐって—」と題し、二学会合同シンポジウムを開催した。

委員会開催：3回（2021年7月26日、10月24日、11月29日）いずれもオンライン開催

その他、若手研究者活動推進委員会の Slack ワークスペースを開設し、常時コミュニケーションをとった。

## (9) 国際活動推進委員会\*世界看護科学学会を含む（池田真理理事）

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。世界看護科学学会 (World Academy of Nursing Science 「WANS」) の事務局運営も担当。

### ① 委員会としての活動

- ・国際活動推進委員会を6回（2021年4月1日、新メンバーで8月19日、10月21日、12月15日、2022年1月24日、3月23日）オンラインで開催した。

### ② 委員会企画 交流集会

- ・第41回学術集会で、交流集会「日本の看護学研究者が海外の研究者とネットワークを構築するために」を開催した（2021年12月5日12:30~13:30 Zoom オンライン）。

### ③ 世界看護科学学会 (World Academy of Nursing Science : WANS)

- ・世界看護科学学会 (WANS) 事務局業務を引き続き実施した（ホームページ維持管理含む）。
- ・過去の4年間、理事長は JANS から推薦された片田委員であった。12月で任期（2期）満了となることから、12月8日開催の理事会で次期理事長の選挙を行った。TNMC (Thailand Nursing Midwifery Council) の Tassana Boontong 氏が理事長に選出された。2022年1月より WANS 事務局もこちらに移行した。
- ・第7回世界看護科学学会学術集会 (WANS) 2022年10月開催予定の4つの招待シンポジウムの中の Education Session において、JANS からは吉永尚紀氏を推薦し、決定した。

### ④ 異文化看護データベース

- ・異文化看護データベースの維持・更新について引き続き国際活動推進委員が中心となってデータ更新を進めている。

## (10) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

看護学が扱う専門用語（看護学学術用語）の概念的統一を図り、これまでに作成した用語を維持管理・普及を行うシステム構築の検討を実施。また新たな用語を検討・追加するための以下の委員会活動を行った。

### ① 用語「セルフケア」の検討と再定義化

- ・ 研究計画書に準じてフォーカスグループインタビュー調査を実施し、逐語録に対する内容分析を行い、再定義を行った。

フォーカスグループインタビューは2グループに実施した。対象者は計13名（女性10名、男性3名）、平均実務年数22.5年、専門領域は、救急2名、回復期1名、精神2名、小児1名、母性・助産1名、老年2名、急性期1名、慢性期1名、在宅1名、管理1名であった。

### ② 既存の100の用語の電子システム化と新用語追加に対する募集要項等の作成

- ・ 過去の委員会活動で作成された100の用語を広く会員に活用してもらえるよう電子システム化を進めている。それによりデジタル上での検索を容易にしていく。また新用語を今後、電子システム上に追加できるよう新用語の追加に関する募集要項、審査基準等を作成中である。

### ③ 第41回学術集会での交流セッションの開催

- ・ 第41回学術集会で交流集会「学術用語の定義付けが看護実践にもたらす意味—セルフケア概念に着目して」を開催し（2021年12月4日13:00~14:00 Zoom オンライン）、意見交換を行った。同時に100の用語の電子システム化を公表し、活用を促すアナウンスを行った。

### ④ 日本看護協会主催「看護にかかわる用語の検討委員会」への参加

- ・ 上記委員会（2021年9月15日、11月1日、1月21日）に参加し、看護で扱う用語について意見交換を行った。

委員会開催：4回（2021年8月16日、11月4日、11月17日、2月10日）全てオンライン

その他班会議をオンラインにて5回程度開催。

## (11) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民公開講座」や次世代の看護学研究者育成事業「ナーシング・サイエンス・カフェ」などを実施。

### ① 第41回学術集会において市民公開講座を開催

- ・ 第41回学術集会で市民公開講座「感染症流行時の災害に備える ～社会的弱者の安全と健康を守る～」(オンデマンド配信、ライブ質疑応答)を開催した。

視聴期間：2021年11月29日～12月28日

- ・ 演者：愛知県立大学 看護学部 教授：清水宣明氏
- ・ 申込者数：635名、動画再生回数1155回
- ・ JANS41 市民公開講座の動画は、JANS41 終了後も会員が閲覧できるよう、会員限定の会員メニュー内に保存した。

### ② JANS42の「市民公開講座」の検討

- ・ 広島国際会議場にてハイブリッド形式でJANS42市民公開講座を開催予定。
- ・ 講師の選定と内容を現在検討中である。

### ③ 次世代の看護学研究者育成事業「ナーシング・サイエンス・カフェ」の検討

- ・次世代の看護学研究者育成事業として、これまで中高生を対象に対面式開催であったナーシング・サイエンス・カフェを再検討した。今期より、次世代育成・発掘事業「人の幸せにつながる科学を探求しませんかー看護学への招待ー」をテーマとして、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」動画とウェブサイトを立てる計画を立案した。
- ・現在、動画作成の検討中であり、この動画を視聴した中高生を対象に、今後、交流会を開催し、次世代の看護学研究者の育成・発掘を目指す。

委員会開催：1回（2021年8月25日）、2回（2021年9月21日）3回（2021年10月13日）、  
4回（2021年11月22日）、5回（2022年2月9日）全てオンライン  
その他に班会議を5～6回開催

## (12) 広報委員会（法橋尚宏副理事長）

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、当日の記録の保存）、学会ウェブサイトの定期的な更新や維持・管理等を実施。

### ① ウェブサイトの維持・管理・改善

- ・本会公式ウェブサイトの維持・管理・改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。

### ② 学術集会等の広報活動

- ・第41回学術集会の市民フォーラム（市民公開講座）の広報活動を行った。
- ・第41回学術集会の様子をスクリーンショットにおさめ、記録として本会ウェブサイトに掲載した。

### ③ 委員会成果物の公表

- ・JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2020年度表彰論文の追加掲載を行った。

### ④ 英語版ウェブサイトのリニューアル

- ・英語版ウェブサイトのリニューアルを行った（2021年6月）。

### ⑤ デジタル広報の推進

- ・Facebook ページ（会員が交流できる会員フォーラム）と YouTube チャンネル（電子的広報の場）の開設、本会のマスコットキャラクター（ジャンとスウ）を整備し、デジタル広報を推進した。
- ・会員向けのニューズレター（電子メールで一斉配信）の創刊の準備をした。

委員会開催：2回（2021年8月29日（日）、2021年9月26日（日））

その他、専用のメーリングリストで常時情報共有と議論

## (13) 看護倫理検討委員会（手島恵理事）

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施する。

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

委員会開催：1回（2021年10月28日）

#### (14) 利益相反委員会（井上智子理事）

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大なCOI状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
- ・学術活動の利益相反に関する本学会の細則等の見直しを行うことを計画した。
- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則との整合性を検討した。

委員会開催：1回（2022年3月25日）メール審議

#### (15) 研究倫理審査委員会（井上智子理事）

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

##### 研究倫理審査の実施

- ・2021年3月～2022年3月までに3件の申請があり、前年度条件付きの回答をし、再提出後承認2件、申請受理に至らないとの判断により1件不受理とした。

#### (16) 災害看護支援委員会（近藤暁子理事）

看護系学会と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

- ・災害発生時には、緊急に拡大災害支援対策委員会を組織し、災害に対応していくこととしている。今期は該当なし。
- ・日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討することとしている。今期は該当なし。
- ・日本学術会議公開シンポジウム「コロナ禍におけるトリアージの問題 ―世界の事例から日本を考察する」に参加した（2021年8月29日オンライン）。
- ・日本学術会議公開シンポジウム「コロナ禍における社会の分断：ジェンダー格差に着目して」に参加した（2021年9月19日オンライン）。
- ・日本学術会議緊急フォーラム「新型コロナウイルス感染症の災害級流行急拡大への対応」に参加した（2021年9月19日オンライン）。
- ・日本学術会議公開シンポジウム「WITH/AFTER コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション」に参加した（2021年9月25日オンライン）。
- ・日本学術会議主催学術フォーラム コロナ禍を共に生きる #3「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか～国際連携の必然性と可能性～」に参加した（2021年10月23日オンライン）。
- ・日本学術会議東北地区会議主催公開学術講演会「災害と文明―災害に対する社会の対応―」に参加した（2021年10月30日オンライン）。
- ・防災推進国民大会 日本学術会議／防災学術連携体シンポジウム「防災教育と災害伝承」に参加した

(2021年11月6日オンライン)。

- ・(一社)防災学術連携体「防災教育と災害伝承」への多様な視点に参加した(2021年11月6日オンライン)。
- ・「コロナ患者の対応を本務としていないJANS会員(教員、大学院生など)のCOVID-19支援の現状及び所属機関からのサポートに関する調査」の研究計画書を作成した。

委員会開催:3回(2021年8月12日、10月26日、12月23日)

### (17) 若手研究者助成選考委員会(亀井智子理事)

2020年からの準備委員会の活動を経て、2021年4月から若手研究者への助成を開始した。

- ・初年度である2021年度上期は3件の申請があり、2件の海外留学について助成を決定した。

氏名(敬称略)	計画名	金額
田中 真木	University of Alberta への海外留学	1,060,000 円
八木 街子	ハワイ大学シミュレーションセンター (SimTiki Simulation Center, University of Hawaii) への留学	1,060,000 円

- ・2021年度下期の募集を9月10日から10月31日まで実施し、問い合わせはあったが応募はなかった。

委員会開催:1回(2021年6月2日)

### (18) 会則等委員会(石橋みゆき理事)

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行うため2020年6月に設置された委員会である。

#### ① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討

- ・若手研究者の育成及び支援に関する新規事業の定款への反映(2021年3月31日施行)。
- ・研究助成等の新規事業の開始に伴い、正会員に関する記載について、下位の会則変更の内容が定款に及ぼす影響を検討し、改正の必要性を検討。

#### ② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

### (19) COVID-19 看護研究等対策委員会(須釜淳子理事)

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第2条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、このCOVID-19の状況下で何ができるのかを実践するために時限的(2~3年)な活動をすることで理事会承認により設置された。

- ・調査報告結果を解析し、海外専門学術誌に投稿し、JJNSに採択され、9月8日にオンライン公開された(e12454)。

- ・第2回目調査について検討を開始した（8月26日～）
- ・第41回日本看護科学学会学術集会にて、若手研究者活動推進委員会と共同でシンポジウム「コロナ禍での看護研究をいかに活性化するか？：会員調査に関する共同研究の枠組みと次のステップ」を開催した（12月4日15：20～16：20 Zoom オンライン）。
- ・新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員への研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査（2回目）を2022年3月7日～3月31日オンライン調査で行った。
- ・取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトの成果を公表論文として学会HP上に公開した。

委員会開催回数：2回（2021年8月26日、10月29日）その他、メール会議

## (20) 総務委員会（中村幸代理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した（会員数等については、総務報告を参照）。

### ① 入会審査、会員管理の実施

入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2021年度の入会審査数は、736名であった（2022年3月31現在）。

### ② 学会事務所の運営

- ・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
- ・事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面談を実施し、業務遂行状況の把握をした。特にCOVID-19対策について、在宅勤務の併用、事務所内での感染対策等が円滑に実施できるよう支援した。
- ・事務所の移転のために、移転先の条件の整理・検索・検討を実施した。
- ・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

委員会開催回数：1回（2021年7月5日）

メール審議回数：7回

## (21) 新規事業：研究助成の実施に関する準備（法橋尚宏副理事長）

2022年度から会員向けに申請開始を予定し、総務会を中心に以下の活動を行った。

### ① 実施内容の検討、決定

- ・正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
- ・正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成
- ・資金の確保 等

### ② 規程（研究助成選考委員会の新設を含む）、細則、申し合わせ事項の作成と理事会承認

### ③ 研究助成選考委員の提案と理事会決定

### ④ 内閣府公益認定等委員会への変更認定の申請（2022年3月30日）

### ⑤ 助成システム（申請・審査/選考・採択/不採択・報告等）の選定

### ⑥ 今後のスケジュールに関する共有



- ・2022年7月以降（新規募集）、11月（選考）12月～（結果の通知）
- ・2023年4月（助成金支払）等

## **(22) 他機関との連携活動**

### **① 日本看護系学会協議会（JANA）（法橋尚宏副理事長）**

- ・2021年度社員総会は、COVID-19の感染拡大を防ぐため、昨年と同様に開催形式を変更して開催された。
- ・2021年5月29日（土）に、書面総会資料を踏まえての各社員学会との意見交換会に出席した（オンライン開催）。
- ・2021年度社員総会に書面議決書で出席した（2021年6月19日（土）開催）。  
議案：2020年度決算報告、2020年度会計監査報告、2021-2022年度役員選挙による新役員の選任
- ・医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2021年度は10名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については2016年度から行ってきた。併せて毎年開催の協力学会説明会にも参加した（2022年3月22日オンラインにて）。
- ・その他、JANAから提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

### **② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）**

- ・看保連2022年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ4名（6件）の応募があり、社会貢献委員会で審査し1名が承認となった。

### **③ 日本学術会議（法橋尚宏副理事長）**

- ・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

### **④ その他の機関（法橋尚宏副理事長）**

- ・対応すべき事案はなかった。

## **(23) 選挙管理委員会（中村幸代理事）**

- ・第3回選挙管理委員会を2021年4月19日に開催し、同年3月1日に行われた理事候補者選挙の開票結果から理事候補者名簿の作成を行い、2021年5月21日に開催の第1回理事会に理事候補者名簿を提出した。

# 第1号議案

法人名:公益社団法人 日本看護科学学会

## 貸借対照表

2022年 3月 31日 現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	157,858,564	174,510,279	△ 16,651,715
未収会費	2,330,000	2,370,000	△ 40,000
未収金	555,713	723,044	△ 167,331
たな卸資産	27,000	27,000	0
前払費用	6,068,548	5,851,571	216,977
流動資産合計	166,839,825	183,481,894	△ 16,642,069
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2)特定資産			
選挙積立預金	3,968,467	3,040,593	927,874
退職給付引当資産	7,761,600	6,370,100	1,391,500
若手研究者助成資金	27,880,000	30,000,000	△ 2,120,000
研究助成資金	30,000,000	0	30,000,000
特定資産合計	69,610,067	39,410,693	30,199,374
(3)その他固定資産			
什器備品	28,586	49,523	△ 20,937
リース資産	0	526,176	△ 526,176
電話加入権	72,030	72,030	0
保証金	1,400,000	1,400,000	0
長期前払費用	110,000	0	110,000
その他固定資産合計	1,610,616	2,047,729	△ 437,113
固定資産合計	71,220,683	41,458,422	29,762,261
資産合計	238,060,508	224,940,316	13,120,192
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	4,092,208	6,066,949	△ 1,974,741
未払法人税等	80,400	76,000	4,400
未払消費税等	40,900	577,500	△ 536,600
前受会費	18,770,000	19,710,000	△ 940,000
前受金	360,000	0	360,000
預り金	180,018	183,179	△ 3,161
仮受金	0	10,000	△ 10,000
短期リース債務	0	526,176	△ 526,176
流動負債合計	23,523,526	27,149,804	△ 3,626,278
2. 固定負債			
退職給付引当金	7,761,600	6,370,100	1,391,500
固定負債合計	7,761,600	6,370,100	1,391,500
負債合計	31,285,126	33,519,904	△ 2,234,778
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	72,926,624	72,926,624	0
2. 指定正味財産			
3. 一般正味財産			
(1)代替基金	0	0	0
(2)その他一般正味財産	133,848,758	118,493,788	15,354,970
一般正味財産合計	133,848,758	118,493,788	15,354,970
(うち特定資産への充当額)	(61,848,467)	(33,040,593)	(28,807,874)
正味財産合計	206,775,382	191,420,412	15,354,970
負債及び正味財産合計	238,060,508	224,940,316	13,120,192

貸借対照表内訳表  
2022年 3月 31日 現在

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
<b>I 資産の部</b>					
<b>1. 流動資産</b>					
現金預金	56,420,559	0	101,438,005	0	157,858,564
未収会費	0	0	2,330,000	0	2,330,000
未収金	555,713	0	0	0	555,713
たな卸資産	27,000	0	0	0	27,000
前払費用	5,501,535	0	567,013	0	6,068,548
他会計短期貸付金	0	0	160,393,148	△ 160,393,148	0
流動資産合計	62,504,807	0	264,728,166	△ 160,393,148	166,839,825
<b>2. 固定資産</b>					
<b>(1)基本財産</b>					
基本財産合計	0	0	0	0	0
<b>(2)特定資産</b>					
選挙積立預金	0	0	3,968,467	0	3,968,467
退職給付引当資産	0	0	7,761,600	0	7,761,600
若手研究者助成資金	27,880,000	0	0	0	27,880,000
研究助成資金	30,000,000	0	0	0	30,000,000
特定資産合計	57,880,000	0	11,730,067	0	69,610,067
<b>(3)その他固定資産</b>					
什器備品	10,492	462	17,632	0	28,586
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
保証金	0	0	1,400,000	0	1,400,000
長期前払費用	0	0	110,000	0	110,000
その他固定資産合計	10,492	462	1,599,662	0	1,610,616
固定資産合計	57,890,492	462	13,329,729	0	71,220,683
資産合計	120,395,299	462	278,057,895	△ 160,393,148	238,060,508
<b>II 負債の部</b>					
<b>1. 流動負債</b>					
未払費用	3,567,296	0	524,912	0	4,092,208
未払法人税等	0	80,400	0	0	80,400
未払消費税等	32,931	7,969	0	0	40,900
前受会費	0	0	18,770,000	0	18,770,000
前受金	250,000	110,000	0	0	360,000
預り金	0	0	180,018	0	180,018
他会計短期借入金	156,526,766	3,866,382	0	△ 160,393,148	0
流動負債合計	160,376,993	4,064,751	19,474,930	△ 160,393,148	23,523,526
<b>2. 固定負債</b>					
退職給付引当金	0	0	7,761,600	0	7,761,600
固定負債合計	0	0	7,761,600	0	7,761,600
負債合計	160,376,993	4,064,751	27,236,530	△ 160,393,148	31,285,126
<b>III 正味財産の部</b>					
<b>1. 基金</b>					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
<b>2. 指定正味財産</b>					
<b>3. 一般正味財産</b>					
(1)代替基金	0	0	0	0	0
(2)その他一般正味財産	△ 39,981,694	△ 4,064,289	177,894,741	0	133,848,758
一般正味財産合計	△ 39,981,694	△ 4,064,289	177,894,741	0	133,848,758
(うち特定資産への充当額)	(57,880,000)	(0)	(3,968,467)	(0)	(61,848,467)
正味財産合計	△ 39,981,694	△ 4,064,289	250,821,365	0	206,775,382
負債及び正味財産合計	120,395,299	462	278,057,895	△ 160,393,148	238,060,508

## 正味財産増減計算書

2021年 4月 1日 から2022年 3月 31日 まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	95	74	21
受取会費			
正会員受取会費	100,440,000	99,300,000	1,140,000
賛助会員受取会費	250,000	250,000	0
受取会費計	100,690,000	99,550,000	1,140,000
事業収益			
学会誌収益	989,200	627,800	361,400
著作権料収益	1,126,064	3,270,227	△ 2,144,163
セミナー収益	2,477,000	2,980,000	△ 503,000
学術集会収益	37,338,000	45,027,000	△ 7,689,000
広告販売収益	2,344,000	5,478,000	△ 3,134,000
事業収益計	44,274,264	57,383,027	△ 13,108,763
受取寄付金			
受取寄付金	0	30,000	△ 30,000
受取助成金	400,000	1,067,000	△ 667,000
受取寄付金振替額	0	90,000	△ 90,000
受取寄付金計	400,000	1,187,000	△ 787,000
雑収益			
受取利息	6	5	1
経常収益計	145,364,365	158,120,106	△ 12,755,741
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	27,000	27,000	0
和文誌発行費	10,526,158	8,762,044	1,764,114
英文誌発行費	19,847,010	19,820,390	26,620
期末たな卸高	△ 27,000	△ 27,000	0
給料手当	11,793,724	10,803,385	990,339
臨時雇賃金	238,727	85,600	153,127
賞与	1,794,820	1,593,273	201,547
退職給付費用	847,297	861,059	△ 13,762
福利厚生費	2,219,928	2,060,803	159,125
旅費交通費	71,938	15,949	55,989
通信運搬費	4,659,945	5,064,954	△ 405,009
減価償却費	248,314	328,761	△ 80,447
消耗品費	2,155,374	2,300,189	△ 144,815
修繕費	14,066	0	14,066
印刷製本費	7,028,363	3,094,950	3,933,413
光熱水料費	387,726	355,118	32,608
賃借料	2,702,772	2,556,915	145,857
保険料	50,671	50,497	174
諸謝金	1,737,139	2,981,211	△ 1,244,072
租税公課	508,200	934,600	△ 426,400
支払助成金	2,120,000	0	2,120,000
委託費	22,186,227	32,528,524	△ 10,342,297
会議費	260,855	86,223	174,632
表彰費	1,198,695	143,980	1,054,715
会場費	3,394,916	431,455	2,963,461
通勤手当	742,992	852,798	△ 109,806
雑費	3,277,812	4,245,537	△ 967,725
事業費計	100,013,669	99,958,215	55,454

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
管理費			
給料手当	7,574,878	6,938,805	636,073
賞与	1,152,780	1,023,327	129,453
臨時雇賃金	25,125	18,750	6,375
退職給付費用	544,203	553,041	△ 8,838
福利厚生費	1,425,816	1,323,614	102,202
会議費	2,204,043	1,001,369	1,202,674
渉外費	8,625	8,640	△ 15
旅費交通費	7,195	6,135	1,060
通信運搬費	737,800	795,628	△ 57,828
減価償却費	167,255	219,265	△ 52,010
通勤手当	477,208	547,736	△ 70,528
消耗品費	309,439	817,535	△ 508,096
修繕費	9,034	0	9,034
印刷製本費	49,791	31,877	17,914
光熱水料費	249,028	228,084	20,944
賃借料	1,735,939	1,642,255	93,684
保険料	32,542	32,434	108
租税公課	2,268	20,800	△ 18,532
支払負担金	430,000	430,000	0
支払寄付金	5,000,000	0	5,000,000
委託費	4,759,742	4,115,807	643,935
資格喪失者会費	2,210,000	2,200,000	10,000
雑費	802,615	809,156	△ 6,541
管理費計	29,915,326	22,764,258	7,151,068
経常費用計	129,928,995	122,722,473	7,206,522
評価損益等調整前当期経常増減額	15,435,370	35,397,633	△ 19,962,263
当期経常増減額	15,435,370	35,397,633	△ 19,962,263
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	15,435,370	35,397,633	△ 19,962,263
法人税、住民税及び事業税	80,400	76,000	4,400
当期一般正味財産増減額	15,354,970	35,321,633	△ 19,966,663
一般正味財産期首残高	118,493,788	83,172,155	35,321,633
一般正味財産期末残高	133,848,758	118,493,788	15,354,970
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	0	△ 90,000	90,000
当期指定正味財産増減額	0	△ 90,000	90,000
指定正味財産期首残高	0	90,000	△ 90,000
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 基金増減の部			
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
IV 正味財産期末残高	206,775,382	191,420,412	15,354,970

正味財産増減計算書内訳表  
2021年 4月 1日 から2022年 3月 31日 まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興事業	学会誌事業	学術集会事業	市民講座等事業	災害看護支援事業	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
特定資産運用益												
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95	95
受取会費												
正会員受取会費	0	0	0	0	0	50,220,000	50,220,000	0	0	0	50,220,000	100,440,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	250,000	250,000	0	0	0	0	250,000
受取会費計	0	0	0	0	0	50,470,000	50,470,000	0	0	0	50,220,000	100,690,000
事業収益												
学会誌収益	0	989,200	0	0	0	0	989,200	0	0	0	0	989,200
著作権料収益	0	1,126,064	0	0	0	0	1,126,064	0	0	0	0	1,126,064
セミナー収益	1,864,000	613,000	0	0	0	0	2,477,000	0	0	0	0	2,477,000
学術集会収益	0	0	37,338,000	0	0	0	37,338,000	0	0	0	0	37,338,000
広告販売収益	0	0	0	0	0	0	0	2,344,000	0	2,344,000	0	2,344,000
事業収益計	1,864,000	2,728,264	37,338,000	0	0	0	41,930,264	2,344,000	0	2,344,000	0	44,274,264
受取寄付金												
受取助成金	0	0	400,000	0	0	0	400,000	0	0	0	0	400,000
雑収益												
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
経常収益計	1,864,000	2,728,264	37,738,000	0	0	50,470,000	92,800,264	2,344,000	0	2,344,000	50,220,101	145,364,365
(2) 経常費用												
事業費												
期首たな卸高	0	27,000	0	0	0	0	27,000	0	0	0	0	27,000
和文誌発行費	0	10,526,158	0	0	0	0	10,526,158	0	0	0	0	10,526,158
英文誌発行費	0	19,847,010	0	0	0	0	19,847,010	0	0	0	0	19,847,010
期末たな卸高	0	△ 27,000	0	0	0	0	△ 27,000	0	0	0	0	△ 27,000
給料手当	4,821,820	1,854,546	4,561,985	238,017	0	0	11,476,368	158,678	158,678	317,356	0	11,793,724
臨時雇賃金	97,151	0	0	141,576	0	0	238,727	0	0	0	0	238,727
賞与	733,806	282,233	694,263	36,222	0	0	1,746,524	24,148	24,148	48,296	0	1,794,820
退職給付費用	346,414	133,236	327,747	17,100	0	0	824,497	11,400	11,400	22,800	0	847,297
福利厚生費	907,609	349,080	858,701	44,802	0	0	2,160,192	29,868	29,868	59,736	0	2,219,928
旅費交通費	37,096	929	2,286	31,467	0	0	71,778	80	80	160	0	71,938
通信運搬費	752,368	179,548	3,598,041	43,132	0	0	4,573,089	71,494	15,362	86,856	0	4,659,945
減価償却費	102,178	39,524	94,771	5,038	0	0	241,511	3,356	3,447	6,803	0	248,314
消耗品費	512,147	74,927	1,516,294	15,496	0	0	2,118,864	30,099	6,411	36,510	0	2,155,374
修繕費	5,751	2,212	5,441	284	0	0	13,688	189	189	378	0	14,066
印刷製本費	2,970,578	12,190	4,012,570	30,939	0	0	7,026,277	1,043	1,043	2,086	0	7,028,363
光熱水料費	158,520	60,969	149,978	7,825	0	0	377,292	5,217	5,217	10,434	0	387,726
貸借料	1,105,019	425,007	1,045,472	54,546	0	0	2,630,044	36,364	36,364	72,728	0	2,702,772
保険料	20,716	7,968	19,600	1,023	0	0	49,307	682	682	1,364	0	50,671
諸謝金	445,480	189,096	1,080,289	22,274	0	0	1,737,139	0	0	0	0	1,737,139
租税公課	78,747	87,681	242,747	0	0	0	409,175	99,025	99,025	99,025	0	508,200
支払助成金	2,120,000	0	0	0	0	0	2,120,000	0	0	0	0	2,120,000
委託費	3,565,614	1,462,959	16,371,912	699,590	0	0	22,100,075	43,076	43,076	86,152	0	22,186,227
会議費	0	0	247,503	8,950	0	0	256,453	4,402	0	4,402	0	260,855
表彰費	0	1,198,695	0	0	0	0	1,198,695	0	0	0	0	1,198,695
会場費	0	0	3,335,596	0	0	0	3,335,596	59,320	0	59,320	0	3,394,916
通動手当	303,769	116,834	287,400	14,995	0	0	722,998	9,997	9,997	19,994	0	742,992
雑費	826,830	231,775	2,160,361	25,220	0	0	3,244,186	16,813	16,813	33,626	0	3,277,812
事業費計	19,911,613	37,082,577	40,612,957	1,438,496	0	0	99,045,643	605,251	362,775	968,026	0	100,013,669

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興事業	学会誌事業	学術集会事業	市民講座等事業	災害看護支援事業	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
管理費												
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,574,878	7,574,878
賞与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,152,780	1,152,780
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,125	25,125
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	544,203	544,203
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,425,816	1,425,816
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,204,043	2,204,043
渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,625	8,625
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,195	7,195
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	737,800	737,800
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	167,255	167,255
通勤手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	477,208	477,208
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	309,439	309,439
修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,034	9,034
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49,791	49,791
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	249,028	249,028
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,735,939	1,735,939
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32,542	32,542
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,268	2,268
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	430,000	430,000
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,000,000	5,000,000
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,759,742	4,759,742
資格喪失者会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,210,000	2,210,000
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	802,615	802,615
管理費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29,915,326	29,915,326
経常費用計	19,911,613	37,082,577	40,612,957	1,438,496	0	0	99,045,643	605,251	362,775	968,026	29,915,326	129,928,995
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 18,047,613	△ 34,354,313	△ 2,874,957	△ 1,438,496	0	50,470,000	△ 6,245,379	1,738,749	△ 362,775	1,375,974	20,304,775	15,435,370
当期経常増減額	△ 18,047,613	△ 34,354,313	△ 2,874,957	△ 1,438,496	0	50,470,000	△ 6,245,379	1,738,749	△ 362,775	1,375,974	20,304,775	15,435,370
2. 経常外増減の部												
(1) 経常外収益												
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用												
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 18,047,613	△ 34,354,313	△ 2,874,957	△ 1,438,496	0	50,470,000	△ 6,245,379	1,738,749	△ 362,775	1,375,974	20,304,775	15,435,370
他会計振替額	0	0	0	0	0	1,557,711	1,557,711	△ 1,557,711	0	△ 1,557,711	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 18,047,613	△ 34,354,313	△ 2,874,957	△ 1,438,496	0	52,027,711	△ 4,687,668	181,038	△ 362,775	△ 181,737	20,304,775	15,435,370
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	80,400	0	80,400	0	80,400
当期一般正味財産増減額	△ 18,047,613	△ 34,354,313	△ 2,874,957	△ 1,438,496	0	52,027,711	△ 4,687,668	100,638	△ 362,775	△ 262,137	20,304,775	15,354,970
一般正味財産期首残高	-	-	-	-	-	-	△ 35,294,026	-	-	△ 3,802,152	157,589,966	118,493,788
一般正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	△ 39,981,694	-	-	△ 4,064,289	177,894,741	133,848,758
II 指定正味財産増減の部												
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	-	-	-	-	-	-	0	-	-	0	0	0
指定正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	0	-	-	0	0	0
III 基金増減の部												
基金受入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基金返還額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基金期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624
基金期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624
IV 正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	△ 39,981,694	-	-	△ 4,064,289	250,821,365	206,775,382

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)当法人は、公益法人会計基準(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(2)たな卸資産の評価基準及び評価方法  
最終仕入原価法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっている。

(3)固定資産の減価償却の方法  
法人税法の規定に基づき次のとおりの償却方法を採用している。

①什器備品…定率法によっている。

②リース資産…所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(4)引当金の計上基準  
退職給付引当金…当期末退職給与の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(5)消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
選挙積立預金	3,040,593	1,000,034	72,160	3,968,467
退職給付引当資産	6,370,100	1,391,500	0	7,761,600
若手研究者助成資金	30,000,000	0	2,120,000	27,880,000
研究助成資金	0	30,000,000	0	30,000,000
合計	39,410,693	32,391,534	2,192,160	69,610,067

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち基金からの充当額)	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産					
選挙積立預金	3,968,467	(0)	(0)	(3,968,467)	(0)
退職給付引当資産	7,761,600	(0)	(0)	(0)	(7,761,600)
若手研究者助成資金	27,880,000	(0)	(0)	(27,880,000)	(0)
研究助成資金	30,000,000	(0)	(0)	(30,000,000)	(0)
合計	69,610,067	(0)	(0)	(61,848,467)	(7,761,600)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	785,230	756,644	28,586

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表の記載
第41回日本看護科学学会学術集会助成金	(公社)愛知県看護協会	-	100,000	100,000	-	-
第41回日本看護科学学会学術集会助成金	(公財)大幸財団	-	300,000	300,000	-	-
合計		-	400,000	400,000	-	-

6. リース取引関係

所有権移転外ファイナンス・リース取引は次のとおりである。

リース資産の内容

その他固定資産

事務所において利用している印刷機(什器備品)である。



附属明細書

1. 重要な固定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	選挙積立預金	3,040,593	1,000,034	72,160	3,968,467
	退職給付引当資産	6,370,100	1,391,500	0	7,761,600
	若手研究者助成資金	30,000,000	0	2,120,000	27,880,000
	研究助成資金	0	30,000,000	0	30,000,000
	特定資産計	39,410,693	32,391,534	2,192,160	69,610,067
その他固定資産	什器備品	49,523	0	20,937	28,586
	リース資産	526,176	0	526,176	0
	電話加入権	72,030	0	0	72,030
	保証金	1,400,000	0	0	1,400,000
	長期前払費用	0	110,000	0	110,000
	その他固定資産計	2,047,729	110,000	547,113	1,610,616

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	6,370,100	1,391,500	0	0	7,761,600

財産目録  
2022年 3月 31日 現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
現金	手元現金		運転資金として	240,052
預金	普通預金			
	みずほ銀行本郷支店		運転資金として	75,471,253
	三菱UFJ銀行 本郷支店		運転資金として	23,930,292
	三菱UFJ銀行 本郷支店		学術集会運営資金として	55,899,557
	みずほ銀行 虎ノ門支店		学術集会運営資金として	500,002
	ゆうちょ銀行 振替口座		運転資金として	1,796,408
	ゆうちょ銀行 振替口座		JANSセミナー運営資金として	21,000
未収会費	2021年度会費233名分		会員会費未収金	2,330,000
未収金	(株)中西印刷		2022.1~2022.3月分学会誌印税	382,800
	(株)メテオ		2021.4~2022.3月分学会誌著作権料	3,913
	(株)メタップスパイメント		第19回JANSセミナー参加費	169,000
たな卸資産	学会誌・学術講演集在庫		学会誌及び学術講演集	27,000
前払費用	(有)プライムアソシエイツ		JJNS編集事務費2022.4~12月分	3,795,000
	ウィリアム・ルイス・ホルツマー		JJNS編集長報酬2022.4~6月分	750,000
	(株)杏林舎		システム利用料2022.4~12月分	956,535
	(有)富士見ビル(フジミビル)		事務所賃借料2022.4月分	293,333
	春日土地(株) 事務所賃借更新料		管理業務の用に供している。	146,666
	2022.4~2023.3月分			
	AIG損害保険(株)		個人情報漏洩保険2022.4~2023.3月分	76,500
	弥生(株)		年間料 <sup>※</sup> ト更新料2022.4~2023.3月分	49,720
	(株)ライフステージ		火災保険料2022.4,5月分	794
<b>流動資産合計</b>				<b>166,839,825</b>
<b>(固定資産)</b>				
<b>特定資産</b>				
選挙積立預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店		選挙のための資産である。	3,968,467
退職給付引当資産	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店		退職金の引当資産である。	7,761,600
若手研究者助成資金	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店		公益目的事業に係る特定費用準備資金であり、若手研究者への助成費用に備えるための資金である。	27,880,000
研究助成資金	普通預金 みずほ銀行本郷支店		公益目的事業に係る特定費用準備資金であり、研究者への助成費用に備えるための資金である。	30,000,000
<b>その他固定資産</b>				
什器備品	東京都文京区本郷3-37-3 オカムラ両開き書庫他3点		共用財産であり、公益目的事業の用に36.7%、収益事業の用に1.6%、管理業務の用に61.7%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	28,586
電話加入権	東京都文京区本郷3-37-3		管理業務の用に供している。	72,030
保証金	(有)富士見ビル(フジミビル)		管理業務の用に供している。	1,400,000
長期前払費用	春日土地(株) 事務所賃借更新料		管理業務の用に供している。	110,000
	2023.4~2023.12月分			
<b>固定資産合計</b>				<b>71,220,683</b>
<b>資産合計</b>				<b>238,060,508</b>

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払費用	中西印刷(株)	和文学会誌Vol41(1月～3月)制作費他	2,796,090
		(株)プランニングウィル	第19回JANSセミナー運営委託費用	465,300
		(株)杏林舎	ホームページ運用管理費用	259,600
		厚生労働省年金局	社会保険料(3月分)	251,028
		Dropbox International Unlimited Company	追加ライセンス12件	127,388
		(株)クリムゾンインタラクティブ・ジャパン	ガイドライン英文校正	122,600
		(株)セカンド	学術用語公募フライヤー制作費	55,000
		日本郵便(株)	第42回学術集会案内パンフレット他	918
		その他	その他管理業務に係るもの3件	14,284
		未払法人税等	本郷税務署	2021年度法人税
	東京都千代田都税事務所		2021年度法人住民税・事業税	73,000
	未払消費税等	本郷税務署	2021年度消費税及び地方消費税	40,900
前受会費	2022年度会費	2022年度賛助会員50,000円×5口 2022年度正会員10,000円×1,852名	18,770,000	
前受金	John Wiley&Sons Australia 第42回学術集会協賛2社	2022Vol.19年間サポート費	250,000	
		第42回学術集会広告掲載料他	110,000	
預り金	事務所員	給与源泉税2022.1～3月分	95,770	
	事務所員	住民税3月分	46,100	
	弁護士報酬他5名	報酬源泉税2022.1～3月分	38,148	
流動負債合計				23,523,526
(固定負債)	退職給付引当金	事務所員5名分	2022年3月末日要支給額	7,761,600
固定負債合計				7,761,600
負債合計				31,285,126
正味財産				206,775,382

2021年度 事業活動収支計算書  
2021年 4月 1日 から2022年 3月 31日 まで

(単位：円)

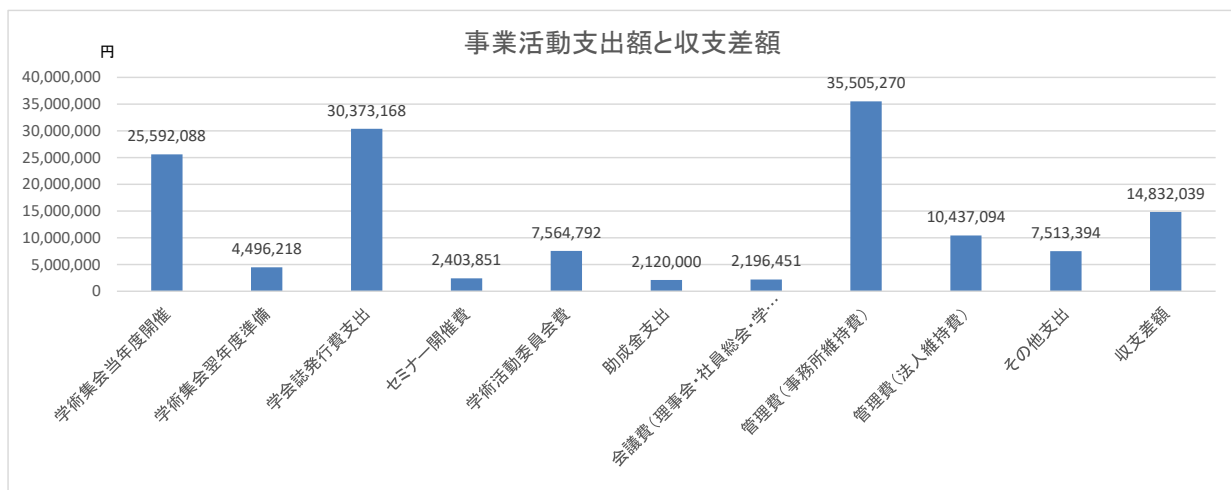
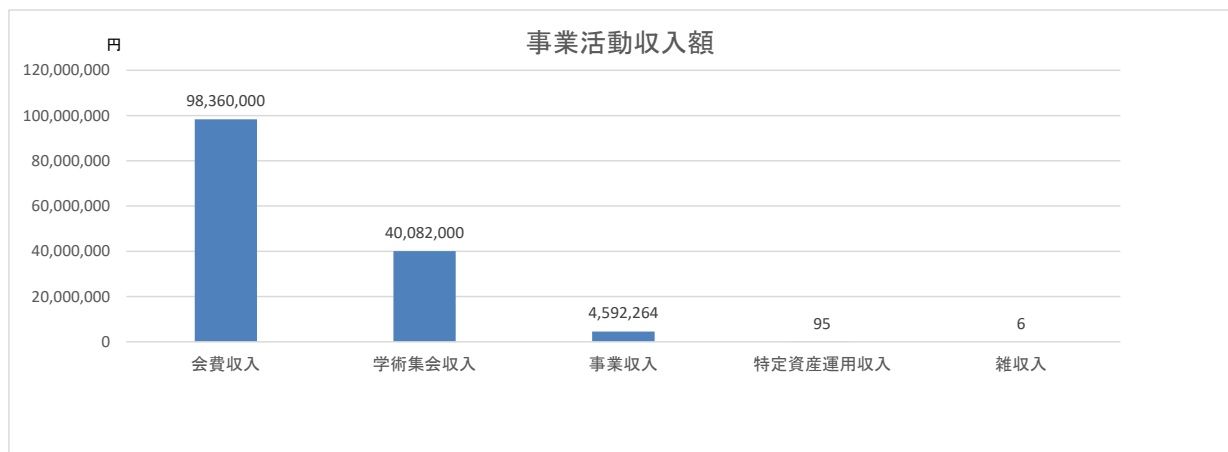
科 目	補足	2021年度 2次補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2021年度 実績額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異	予算執行率 (%)
1. 事業活動収入					
①会費収入		<b>101,750,000</b>	<b>98,360,000</b>	<b>3,390,000</b>	<b>96.7</b>
正会員会費収入	※1	101,500,000	98,110,000	3,390,000	96.7
賛助会員会費収入	※2	250,000	250,000	0	100.0
②公益目的事業収入		<b>42,759,000</b>	<b>42,330,264</b>	<b>428,736</b>	<b>99.0</b>
学術振興事業収入		<b>1,935,000</b>	<b>1,864,000</b>	<b>71,000</b>	<b>96.3</b>
JANSセミナー	※3	1,935,000	1,864,000	71,000	96.3
学会誌事業収入		<b>2,624,000</b>	<b>2,728,264</b>	<b>△104,264</b>	<b>104.0</b>
学会誌販売収入		456,000	409,200	46,800	89.7
著作権料収入	※4	738,000	1,126,064	△388,064	152.6
学会誌収入その他	※5	300,000	580,000	△280,000	193.3
JJNSセミナー	※6	1,130,000	613,000	517,000	54.2
学術集会事業収入		<b>38,200,000</b>	<b>37,738,000</b>	<b>462,000</b>	<b>98.8</b>
学術集会参加費収入		<b>37,800,000</b>	<b>37,338,000</b>	<b>462,000</b>	<b>98.8</b>
会 員 (11,000円)	※7	30,800,000	31,592,000	△792,000	102.6
非会員 (14,000円税込)		7,000,000	5,740,000	1,260,000	82.0
留学生 (2,000円税込)		0	6,000	△6,000	0.0
助成金		400,000	400,000	0	100.0
③収益事業等収入 (広告販売収入)		<b>2,144,000</b>	<b>2,344,000</b>	<b>△200,000</b>	<b>109.3</b>
広告掲載料		1,144,000	1,144,000	0	100.0
ランチョンセミナー		1,000,000	1,200,000	△200,000	120.0
④法人会計収入		<b>1,000</b>	<b>101</b>	<b>899</b>	<b>10.1</b>
特定資産受取利息収入		500	95	405	19.0
受取利息収入		500	6	494	1.2
<b>事業活動収入合計 (I a)</b>		<b>146,654,000</b>	<b>143,034,365</b>	<b>3,619,635</b>	<b>97.5</b>
2. 事業活動支出					
①公益目的事業支出		<b>92,590,000</b>	<b>72,550,117</b>	<b>20,039,883</b>	<b>78.4</b>
学術振興事業支出		<b>18,233,000</b>	<b>8,811,615</b>	<b>9,421,385</b>	<b>48.3</b>
研究・学術推進委員会費支出		465,000	318,723	146,277	68.5
看護ケ了開発・標準化委員会	※8	9,770,000	4,071,261	5,698,739	41.7
若手研究者活動推進委員会費支出	※9	487,000	10,303	476,697	2.1
国際活動推進委員会費支出	※9	700,000	171,800	528,200	24.5
COVID-19看護研究等対策委員会費支出	※10	400,000	0	400,000	0.0
看護学学術用語検討委員会費支出		767,000	759,000	8,000	99.0
看護倫理検討委員会費支出	※9	535,000	4,271	530,729	0.8
災害看護支援委員会支出	※9	100,000	0	100,000	0.0
研究倫理審査委員会費		94,000	0	94,000	0.0
若手研究者助成選考委員会		100,000	22,274	77,726	22.3
若手研究者助成金支出	※11	3,000,000	2,120,000	880,000	70.7
JANSセミナー開催費	※12	1,815,000	1,333,983	481,017	73.5
学会誌事業支出		<b>33,789,000</b>	<b>32,755,731</b>	<b>1,033,269</b>	<b>96.9</b>
和文誌編集委員会費支出	※9	315,000	0	315,000	0.0
和文誌編集費支出	※13	9,640,000	10,526,158	△886,158	109.2
英文誌編集委員会費支出	※9	940,000	114,000	826,000	12.1
英文誌編集費支出		19,800,000	19,847,010	△47,010	100.2
表彰論文選考委員会費支出	※9	271,000	0	271,000	0.0
受賞論文表彰費支出	※14	1,693,000	1,198,695	494,305	70.8
JJNSセミナー開催費		1,130,000	1,069,868	60,132	94.7
学術集会費支出		<b>39,058,000</b>	<b>30,088,306</b>	<b>8,969,694</b>	<b>77.0</b>
当年度開催学術集会	※15	36,242,000	25,592,088	10,649,912	70.6
次年度開催学術集会 (準備期間)	※16	2,816,000	4,496,218	△1,680,218	159.7
市民講座等事業支出		<b>1,510,000</b>	<b>894,465</b>	<b>615,535</b>	<b>59.2</b>
社会貢献委員会支出 (市民フォーラム開催費含む)	※9	705,000	235,880	469,120	33.5
広報委員会費支出 (公益目的事業分)	※17	805,000	658,585	146,415	81.8

(単位：円)

科 目	補足	2021年度 2次補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2021年度 実績額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異	予算執行率 (%)
<b>②管理費支出</b>		<b>59,986,000</b>	<b>53,361,809</b>	<b>6,624,191</b>	<b>89.0</b>
給料手当支出		24,770,000	22,316,202	2,453,798	90.1
福利厚生費支出		4,350,000	3,645,744	704,256	83.8
通勤費支出		1,910,000	1,220,200	689,800	63.9
退職給付支出		300,000	0	300,000	0.0
学会総会費	}	500,000	621,698	△ 121,698	124.3
社員総会費		※18	2,165,000	968,195	1,196,805
理事会費	※19	1,478,000	606,558	871,442	41.0
委託費支出	※20	10,925,000	7,757,263	3,167,737	71.0
人件費支出		50,000	25,125	24,875	50.3
渉外費支出		20,000	8,625	11,375	43.1
旅費交通費支出	※21	330,000	9,705	320,295	2.9
通信運搬費支出		2,190,000	1,875,168	314,832	85.6
消耗品費支出		1,200,000	782,523	417,477	65.2
印刷製本費支出		62,000	127,314	△ 65,314	205.3
慶弔費支出		50,000	0	50,000	0.0
光熱水料費支出		737,000	636,754	100,246	86.4
賃借料支出	※22	4,283,000	4,438,711	△ 155,711	103.6
保険料支出		84,000	83,213	787	99.1
諸謝金支出		50,000	0	50,000	0.0
租税公課支出	※23	650,000	510,468	139,532	78.5
負担金支出	※24	430,000	430,000	0	100.0
修繕費支出		50,000	23,100	26,900	46.2
寄附金支出	※25	0	5,000,000	△ 5,000,000	0.0
雑支出	※26	2,460,000	2,052,249	407,751	83.4
委員会活動費支出		942,000	222,994	719,006	23.7
総務委員会費支出		20,000	3,400	16,600	17.0
利益相反委員会費支出	※27	109,000	7,842	101,158	7.2
広報委員会費支出(法人会計分)	(※17)	20,000	7,592	12,408	38.0
会則等検討委員会費支出	※27	700,000	132,000	568,000	18.9
選挙費用支出		93,000	72,160	20,840	77.6
<b>③その他支出</b>		<b>2,200,000</b>	<b>2,290,400</b>	<b>△ 90,400</b>	<b>104.1</b>
資格喪失者会費支出	※28	2,200,000	2,210,000	△ 10,000	100.5
法人税、住民税及び事業税	※29	0	80,400	△ 80,400	0.0
<b>事業活動支出合計(I b)</b>		<b>154,776,000</b>	<b>128,202,326</b>	<b>26,573,674</b>	<b>82.8</b>
<b>事業活動収支差額(I a)-(I b)</b>		<b>△ 8,122,000</b>	<b>14,832,039</b>	<b>△ 22,954,039</b>	

- ※1 2021年度会員数は10044名であり、そのうち未納者は233名である。したがって2021年度会費の納入は 9811名分。2021年度会費の納入率は97.7% (9811名/10044名)である。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版 各1口。会費1口 50,000円。
- ※3 JANSセミナー参加費(オンライン開催) <第17回 674,000円(会員2,000円×266名、非会員5,000円×28名、学生1,000円×2名)>、<第18回 1,000,000円(会員3,000円×298名、非会員5,000円×19名、学生1,000円×11名)>、<第19回 190,000円(会員3,000円×63名、学生1,000円×1名)>。但し、第17回・第19回は年度をまたぐため2021年度中に入金された参加費のみを計上している。
- ※4 看護ケア開発・標準化委員会編集の「看護ケアのための摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する診療ガイドライン」の刊行に伴い著作権料が増加している。
- ※5 和文誌(会員外の共著者投稿料) および、英文誌(会員外の超過ページ課金)。
- ※6 JJNSセミナー参加費(オンライン開催) <613,000円(会員3,000円×191名、非会員5,000円×8名)>
- ※7 第41回学術集会はオンライン開催に変更したため事前申込と開催中の参加費を同額にしている。参加者 3627名(会員2872名、非会員410名、留学生3名、学生無償342名)
- ※8 摂食嚥下ガイドラインの他のガイドライン制作を2022年度に繰越している。
- ※9 COVID-19の影響によりオンラインでの委員会開催となり、旅費交通費などの経費の使用はなかったが、委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- ※10 COVID-19の動向調査に既存の会員システム(アンケート機能)を利用したため経費の使用がなかった。
- ※11 海外に留学する2名に助成をおこなった。
- ※12 COVID-19の影響によりオンライン開催となったため会場費、資料の印刷費などの経費の使用がなかった。
- ※13 投稿論文の増加により編集事務費が予算を上回った。
- ※14 学術集会の演題表彰システムの一部を表彰選考委員が対応したことにより、かかる経費支出が予算を下回った。
- ※15 第41回学術集会の開催にかかった2021年度中の経費。
- ※16 第42回学術集会の準備にかかった2021年度中の経費。
- ※17 【広報委員会の活動のうち公益目的事業(市民フォーラム、学術集会)に関する経費を事業費に計上している】  
COVID-19の影響によりオンラインでの委員会開催となったため旅費交通費などの経費の使用はなかったが、委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- ※18 すべてオンライン開催となったため会場費、旅費交通費などは使用しなかったが、ライブ配信に関する経費の支出があった。学会総会1回(12月/学術集会開催時)、社員総会 2回(6月、12月)。

- ※19 すべてオンライン開催となったため会議費、旅費交通費などの経費を使用しなかった。定例理事会 6回(5月、6月、9月、10月、12月、2月)、臨時理事会1回(7月)。
- ※20 【法人として必要】  
 会計事務所報酬(139万円)＜会計顧問料(78万円)、内閣府提出書類作成料(11万円)、内閣府変更認定申請業務(17万円)、社会保険労務士(33万円)＞、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士報酬(40万円)、司法書士業務報酬(14万円)。  
 【学会事業に直接必要】  
 会員管理システム利用料(263万円)＜基本利用料(111万円)、会費コンビニ決済機能(26万円)、学会集會参加登録・行事管理機能(78万円)、アンケート機能(15万円)、クレジット決済機能追加(33万円)＞、JANSホームページ管理料(203万円)＜基本利用料(57万円)、追加ページ費用(25万円)、Englishページ制作費用(121万円)＞、英訳費用(7万円)、オンライン会議システム利用料(13万円)、封入・発送委託費(19万円)、弁護士費用(5万円)、公認会計士報酬(16万円)。  
 【事務所運営費】  
 事務所警備委託費(21万円)。
- ※21 第42回学会集會がオンライン開催になったことにより職員の出張旅費(名古屋)の使用がなかった。
- ※22 複合機の機種変更に伴いリース料金に変更になっている。
- ※23 消費税課税売上高(学会集會非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など)に係る消費税(本則課税方式)および、収入印紙代。
- ※24 日本看護系学会協議会(JANA) 8万円、看護系学会等社会保険連合(看保連) 30万円、日本学術協力財団 5万円の年会費。
- ※25 公益財団法人日本ユニセフ協会(ウクライナ緊急募金)へ寄付をおこなった。
- ※26 会費等入金手数料(159万円)、経費等支払手数料(18万円)、ネットバンキング利用料(2万円)、貸金庫手数料(2万円)、決算に伴う証明書発行手数料(1万円)、給与ソフト年間サポート料(5万円)、事務所雑支出(18万円)＜飲料水(9万円)、ごみ処理(3万円)、お茶・置き薬・衛生用品等(6万円)＞
- ※27 COVID-19の影響によりオンラインでの委員会開催となったため経費支出が抑えられたが、委員会活動は予定どおりおこなわれた。
- (※17) 【広報委員会の活動のうち、委員会開催費(会議費)を管理費に計上している。】
- ※28 前年度(2020年度)会費の未納により会員資格を喪失(退会)している会員の未収会費。活動経費支出ではないが、会費未納により収入が減少するため費用に計上している。正味財産増減計算書にも表記されている。
- ※29 収益事業(学会誌販売収入、著作権収入、学会集會に伴う広告販売収入)に係る法人税7,400円、法人都民税70,400円、法人事業税2,600円。



# 監査報告書

公益社団法人日本看護科学学会  
理事長 堀内 成子 様

2021年4月1日から2022年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

## 1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について監査いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録）および収支計算書について監査いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

### (2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

### (3) 2022年度遊休財産対策の必要性について

2021年度は前年度に引き続き、収入増に比して、COVID-19のためもあり事業費の減少により遊休財産が増額しています。しかし、3千万円を研究助成資金としたため、遊休財産限度額までは至りませんでした。2022年度は、学術集会をハイブリッドで開催するよう企画しており、少しずつ従来に戻ってきていますので、引き続き遊休財産の増額には注意しつつ事業活動を推進することが重要と考えます。

2022年5月14日

公益社団法人日本看護科学学会

監事 南 裕子 ㊞

監事 村嶋 幸代 ㊞

## 独立監査人の監査報告書

令和4年5月13日

公益社団法人日本看護科学学会  
理事会 御中

牧真之介公認会計士事務所  
東京都港区  
公認会計士 牧 真之介

### < 財務諸表等監査 >

#### 監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本看護科学学会の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和3年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドライン - 5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。



監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### < 財産目録に対する意見 >

##### 財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づき、公益社団法人日本看護科学学会の令和 4 年 3 月 31 日現在の令和 3 年度の財産目録(「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。)について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

##### 財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

##### 財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

##### 利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 第 2 号議案

### 2022 年度事業計画変更（案）と補正予算（案）の承認

#### 1. 研究助成選考委員会

2023 年度から研究助成を行うため、2022 年度に研究助成選考委員会を発足する。併せて、2022 年度に募集と申請、選考、採択までのプロセスに関するシステムを導入するため、450 万円を計上する。

#### 2. 第 42 回日本看護科学学会学術集会

当初は一部をオンライン配信（オンデマンド配信）とするハイブリッド開催を予定していたが、現在のコロナの状況では、現地参加が難しい場合も考えられる。会場発表とオンライン配信（オンデマンド）の 2 種類から選ぶことのできる本格的なハイブリッドに変更するための予算等を 1,065.1 万円増額する。

#### 3. 社会貢献委員会

次世代育成・発掘事業：「人の幸福につながる科学を探究しませんか—看護学への招待」、 「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」 動画作成を行うため、予算を 350 万円増額する。

2022年度 事業活動収支 補正予算(案)

科 目	補足	2022年度 補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	2022年度 予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	差異
<b>1. 事業活動収入</b>				
<b>①会費収入</b>		<b>101,450,000</b>	<b>101,450,000</b>	<b>0</b>
正会員会費収入		101,200,000	101,200,000	0
賛助会員会費収入		250,000	250,000	0
<b>②公益目的事業収入</b>		<b>54,127,000</b>	<b>54,127,000</b>	<b>0</b>
学術振興事業収入		3,120,000	3,120,000	0
JANSセミナー		3,120,000	3,120,000	0
学会誌事業収入		5,007,000	5,007,000	0
学会誌販売収入		377,000	377,000	0
著作権料収入		3,200,000	3,200,000	0
学会誌収入その他		300,000	300,000	0
JJNSセミナー		1,130,000	1,130,000	0
学術集会事業収入		46,000,000	46,000,000	0
学術集会参加費収入		42,500,000	42,500,000	0
事前登録会員 (10,000円)		20,000,000	20,000,000	0
事前登録非会員 (12,000円税込)		5,400,000	5,400,000	0
事前登録学部生		0	0	0
事前登録海外オンライン (2,000円)		140,000	140,000	0
当日登録会員 (12,000円)		12,000,000	12,000,000	0
当日登録非会員 (14,000円税込)		4,900,000	4,900,000	0
当日登録学部生		0	0	0
当日登録海外オンライン (2,000円)		60,000	60,000	0
寄附金・助成金		3,500,000	3,500,000	0
寄附金		500,000	500,000	0
助成金		3,000,000	3,000,000	0
<b>③収益事業等収入 (広告販売収入)</b>		<b>9,911,000</b>	<b>9,911,000</b>	<b>0</b>
企業展示出展料		5,148,000	5,148,000	0
広告掲載料		2,123,000	2,123,000	0
ランチョンセミナー		2,640,000	2,640,000	0
<b>④法人会計収入</b>		<b>751,000</b>	<b>751,000</b>	<b>0</b>
親類会収入		750,000	750,000	0
特定資産受取利息収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
<b>事業活動収入合計 (I a)</b>		<b>166,239,000</b>	<b>166,239,000</b>	<b>0</b>
<b>2. 事業活動支出</b>				
<b>①公益目的事業支出</b>		<b>129,858,000</b>	<b>111,427,000</b>	<b>18,431,000</b>
学術振興事業支出		23,650,000	19,150,000	4,500,000
研究・学術推進委員会費支出		1,540,000	1,540,000	0
看護ケア開発・標準化委員会		10,120,000	10,120,000	0
若手研究者活動推進委員会費支出		587,000	587,000	0
国際活動推進委員会費支出		620,000	620,000	0
COVID-19看護研究等対策委員会費支出		300,000	300,000	0
看護学学術用語検討委員会費支出		628,000	628,000	0
看護倫理検討委員会費支出		363,000	363,000	0
災害看護支援委員会支出		400,000	400,000	0
研究倫理審査委員会費		140,000	140,000	0
研究助成選考委員会	※1	4,500,000	0	4,500,000
若手研究者助成選考委員会		60,000	60,000	0
若手研究者助成金支出		3,000,000	3,000,000	0
JANSセミナー開催費		1,392,000	1,392,000	0
学会誌事業支出		34,809,000	34,809,000	0
和文誌編集委員会費支出		115,000	115,000	0
和文誌編集費支出		10,870,000	10,870,000	0
英文誌編集委員会費支出		940,000	940,000	0
英文誌編集費支出		19,900,000	19,900,000	0
表彰論文選考委員会費支出		354,000	354,000	0
受賞論文表彰費支出		1,500,000	1,500,000	0
JJNSセミナー開催費		1,130,000	1,130,000	0
学術集会費支出		65,432,000	55,001,000	10,431,000
当年度開催学術集会	※2	62,208,000	51,777,000	10,431,000
次年度開催学術集会 (準備期間)		3,224,000	3,224,000	0
市民講座等事業支出		5,967,000	2,467,000	3,500,000
社会貢献委員会支出 (市民フォーラム開催費含む)	※3	4,477,000	977,000	3,500,000
広報委員会費支出 (公益目的事業分)		1,490,000	1,490,000	0

科 目	補足	2022年度 補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	2022年度 予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	差異
<b>②管理費支出</b>		<b>65,666,000</b>	<b>65,446,000</b>	<b>220,000</b>
給料手当支出		25,065,000	25,065,000	0
福利厚生費支出		4,512,000	4,512,000	0
通勤費支出		1,910,000	1,910,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		520,000	520,000	0
社員総会費		3,400,000	3,400,000	0
理事会費		2,580,000	2,580,000	0
委託費支出		6,410,000	6,410,000	0
人件費支出		40,000	40,000	0
渉外費支出		14,000	14,000	0
旅費交通費支出		357,000	357,000	0
通信運搬費支出		2,070,000	2,070,000	0
消耗品費支出		1,035,000	1,035,000	0
印刷製本費支出		103,000	103,000	0
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		617,000	617,000	0
賃借料支出		4,822,000	4,822,000	0
保険料支出		84,000	84,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		840,000	840,000	0
負担金支出		430,000	430,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出		3,000,000	3,000,000	0
懇親会運営費支出	※4	2,288,000	2,068,000	220,000
委員会活動費支出		5,119,000	5,119,000	0
総務委員会費支出		10,000	10,000	0
利益相反委員会費支出		135,000	135,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)		20,000	20,000	0
会則等検討委員会費支出		660,000	660,000	0
選挙費用支出		4,294,000	4,294,000	0
<b>③その他支出</b>		<b>2,200,000</b>	<b>2,200,000</b>	<b>0</b>
資格喪失者会費支出		2,200,000	2,200,000	0
<b>事業活動支出合計(I b)</b>		<b>197,724,000</b>	<b>179,073,000</b>	<b>18,651,000</b>
<b>事業活動収支差額(I a)-(I b)</b>		<b>△ 31,485,000</b>	<b>△ 12,834,000</b>	<b>△ 18,651,000</b>

※1 新委員会の予算計上。研究助成に関するシステム導入費用。

※2 第42回学術集会を一部ハイブリッドから本格的なハイブリッド開催へ変更するためにかかる費用。

※3 次世代育成動画の制作費用。

※4 第42回学術集会開催時の懇親会は事業ではないため管理費に含む。アトラクションに関する費用。

第3号議案

第45回日本看護科学学会学術集会会長の承認

第45回（2025年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

有森 直子（新潟大学）

## 第4号議案

### 名誉会員の承認について

名誉会員についての定款上の規定

第12条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。

2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。

3 第1項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。

第14条 会員は、社員総会で定める会費を納めなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、名誉会員は、会費の納入を要しない。

名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項 (2016年10月23日改正)

1) 「看護学の発展に多大の寄与をした」ことの解釈・・・次のいずれかに該当すること。

① JANSの理事長を務めた。

② JANSの役員を通算5期務めた。監事1期は理事2期として数える。

③ JANSの学術集会会長、国際学術集会会長を務めた。

④ 上記①～③に相当する働きをしたと理事会が認めた。

⑤ その他・・・看護学の発展に格段の貢献をした。

2) 下記の各項目に全て該当すること

a 満70歳以上

b 常勤の現職のないこと

c 理事・社員でないこと

d 本人の同意があること

2022年6月定時社員総会で名誉会員に推薦する会員

前頁の規定に基づき、以下の2名が候補に挙がり、2022年度第1回理事会（5月20日）にて推薦を承認した。

	林 優子 氏
会 員 歴	1989年4月15日～現在（33年）
学術集会会長歴	第33回学術集会会長（2013年）
役 員 代 議 員 歴	代 議 員 2011年～2015年、2015年～2019年 評 議 員 2002年～2004年、2005年～2007年

	菱沼 典子 氏
会 員 歴	1981年7月31日～現在（41年）
学術集会会長歴	第22回学術集会会長（2002年）
役 員 代 議 員 歴	代 議 員 2011年～2015年 評 議 員 1999年～2001年



## 第5号議案

### 定款の一部変更について

事務所移転にともない、定款第4条を下記のとおり変更します。

現 行	変 更 案
(事務所) 第4条 本会は、主たる事務所を東京都 <u>文京区</u> に置く。 2 本会は、理事会の決議により、従 たる事務所を必要な地に置くことが できる。	(事務所) 第4条 本会は、主たる事務所を東京都 <u>千代田区</u> に置く。 2 <現行どおり>

但し、定款変更の効力発生日は、「2022年6月19日開催の第2回理事会において決定する事務所の移転日(\*)」といたしたく存じます。

\* 事務所の移転日は、「8/1～8/31」を予定しております。